

履修要項・シラバス

2023

(2020年度以前入学生対象)



札幌保健医療大学

保健医療学部 栄養学科

2023年度学事暦

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 内 容				全学行事
								栄養学科 1 年次	栄養学科 2 年次	栄養学科 3 年次 (編入 3 年次含む)	栄養学科 4 年次 (編入 4 年次含む)	
4 月							1	4/3、5、6 新入生ガイダンス	4/3前期授業開始 4/13 健康診断	4/3前期授業開始 4/14健康診断	4/3前期授業開始 4/14健康診断	4/4 入学式 4/28 (予定) 体育大会
	2	3	4	5	6	7	8	4/7 前期授業開始				
	9	10	11	12	13	14	15	4/13 健康診断				
	16	17	18	19	20	21	22					
	23	24	25	26	27	28	29					
5 月	30											
		1	2	3	4	5	6				5/29～6/2 給食経営管理論実習Ⅲ	5/1 創立記念日
	7	8	9	10	11	12	13					
	14	15	16	17	18	19	20					
	21	22	23	24	25	26	27					
6 月	28	29	30	31								
					1	2	3				6/5～6/9 栄養教育実習	6/3補講日
	4	5	6	7	8	9	10					
	11	12	13	14	15	16	17					
	18	19	20	21	22	23	24					
7 月	25	26	27	28	29	30						
							1			7/3～7/14 給食経営管理論実習Ⅱ		
	2	3	4	5	6	7	8					
	9	10	11	12	13	14	15					
	16	17	18	19	20	21	22					
8 月	23	24	25	26	27	28	29					
	30	31										
			1	2	3	4	5	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験	8/1～10/13 公衆栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	8/28～9/28 夏期休業 ※学年によって異なる
	6	7	8	9	10	11	12					
	13	14	15	16	17	18	19					
9 月	20	21	22	23	24	25	26					
	27	28	29	30	31							
						1	2	9/29 後期ガイダンス	9/29 後期ガイダンス	9/29 後期ガイダンス		9/22 前期学位授与式
	3	4	5	6	7	8	9					
	10	11	12	13	14	15	16					
10 月	17	18	19	20	21	22	23					
	24	25	26	27	28	29	30					
		1	2	3	4	5	6	10/2 後期授業開始	10/2 後期授業開始 10/21、28 集中講義	10/2 後期授業開始	10/16 後期ガイダンス 10/17 後期授業開始 10/21、28 集中講義	10/7～8 (予定) 大学祭
	8	9	10	11	12	13	14					
	15	16	17	18	19	20	21					
11 月	22	23	24	25	26	27	28					
	29	30	31									
				1	2	3	4			11/11 (予定) グロ-アップ セレモニー	11/11 (予定) (編入生)グロ-アップ セレモニー	11/11 (予定) グロ-アップ セレモニー
	5	6	7	8	9	10	11					
	12	13	14	15	16	17	18					
12 月	19	20	21	22	23	24	25					
	26	27	28	29	30							
						1	2		12/2、23 集中講義		12/2、23 集中講義	12/28～1/5 冬期休業
	3	4	5	6	7	8	9					
	10	11	12	13	14	15	16					
1 月	17	18	19	20	21	22	23					
	24	25	26	27	28	29	30					
	31											
		1	2	3	4	5	6					
	7	8	9	10	11	12	13					
2 月	14	15	16	17	18	19	20					
	21	22	23	24	25	26	27					
	28	29	30	31								
							1	2/13～16 後期定期試験 2/19～22、26 後期追再試験	2/19～22 後期定期試験 2/26～3/1 後期追再試験	2/13～16 後期定期試験 2/19～22、26 後期追再試験		2/5入学試験日
	4	5	6	7	8	9	10					
3 月	11	12	13	14	15	16	17					
	18	19	20	21	22	23	24					
	25	26	27	28	29							
						1	2					3/16 学位記授与式
	3	4	5	6	7	8	9					3/4～3/31 春期休業 ※学年によって異なる
	10	11	12	13	14	15	16					
	17	18	19	20	21	22	23					
	24	25	26	27	28	29	30					
	31											

この他に全学行事として避難訓練が予定されています。
入学試験日は入構できません。
試験期間は暫定で記載しています。
学事暦の日程は、一部変更することがあります。

目 次

I 履修要項

I-1 本学の教育理念	2
I-2 本学の教育目的	2
I-3 本学の教育目標	2
I-4 看護学科の教育目的	2
I-5 栄養学科の教育目的	2
I-6 札幌保健医療大学の三方針	
1) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	3
2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）	4
3) アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）	5
I-7 履修について	
1) 学期	6
2) 修業年限・在学年限	6
3) 授業科目	6
4) 科目の履修および登録	7
I-8 授業について	
1) 授業時間	8
2) 休講・補講・補講等（補習）・集中講義	8
3) 欠席の取扱い	9
4) 欠席回数自己管理について	9
5) 天候による非常事態への対応	10
6) 授業評価アンケート	10
I-9 試験について	
1) 試験の種類・手続き	11
2) 受験資格	12
3) 試験の方法	12
4) 試験時間	12
5) 受験心得	13
6) 不正行為	13
I-10 単位・成績について	
1) 単位について	14
2) 単位修得に関する事項	14
3) 成績通知	15

Ⅱ 栄養学科

Ⅱ-1 栄養学科の臨地実習（先修条件）

1) 実習の先修条件	17
2) 臨地実習における追実習と再実習について	17

Ⅱ-2 栄養学科の卒業要件・進級要件

1) 卒業要件	18
2) 進級要件	18

Ⅱ-3 栄養学科の資格の取得

1) 栄養士免許	19
2) 管理栄養士国家試験受験資格	19
3) 栄養教諭一種免許状	20
4) 食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）	22

Ⅱ-4 教育課程表（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）

2018年度入学生	24
2019・2020年度入学生	26

Ⅱ-5 科目配置表

2018年度入学生	28
2019・2020年度入学生	30

Ⅱ-6 オフィスアワー

32

Ⅲ シラバス

授業科目名と担当者一覧	36
4年次	37
教職課程	63

I 履修要項

I-1 本学の教育理念

本学は、吉田学園の建学の精神に込められた「豊かな人間性」と「職業人としての基礎能力」をもつ人材を育成する伝統を継承しています。

本学は、学生一人ひとりの人間力として、「豊かな感性」「高潔な精神」「確かな知力」を培い、これらの人間的調和と自己成長をはかるとともに、「他者と共存」できる医療人を育成します。

この教育理念の実現によって、社会から必要とされる人材を地域に輩出することで、保健医療福祉の充実・向上に貢献します。

◆本学の教育がめざす、人間力とは、

- ・豊かな感性：人の心に寄り添い、他者との思いや苦悩を汲み取る力
- ・高潔な精神：真・善を追求し、公共の使命と責任を全うする意志力
- ・確かな知力：人間的な判断と行動の知的拠り所となる力
- ・他者との共存：多様な文化や社会、個性ある互いを認め合い、他者と共に生きる力

I-2 本学の教育目的

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

I-3 本学の教育目標

- (1) 人間力を涵養し、社会の一員としての社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。
- (2) 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。
- (3) 人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。
- (4) 保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度を有し、実践力のある人材を育成する。
- (5) 社会生活や保健医療福祉に関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。
- (6) 保健医療福祉の諸課題への探求心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。

I-4 看護学科の教育目的

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

I-5 栄養学科の教育目的

栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。

I-6 札幌保健医療大学の三方針

1) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学において卒業時に修得できる学位の名称は、次のとおりです。

学科	学位
看護学科	学士（看護学）
栄養学科	学士（栄養学）

本学の保健医療学部看護学科・栄養学科は、教育理念・目的をふまえ、学部教育目的の「人間と自然、多様な文化や社会に関する知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「専門分野の基礎知識・技術・態度」「多職種との連携協働力」「生涯学習力」の6つの資質・能力のもと、下記の到達目標に応じた看護師、管理栄養士の専門職業人としての人間的基盤の形成および、各専門的能力を修得するとともに各国家試験受験資格の要件となる単位を含む124単位以上の修得を求めます。これらの方針を満した者は、看護学科においては学士（看護学）、栄養学科においては学士（栄養学）の学位を授与します。

【看護学科】

- (1) 職業人として、日本語および英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基礎を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断および表現する能力を有している。
- (2) 自己の良心と社会規範に従い、社会の一員としての責任感のもとに自己を統制し行動できるとともに、社会のために積極的に関与できる態度を有している。
- (3) 生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
- (4) 人間と生活、心身の健康、社会の直面する諸課題についての基礎知識を習得し、人間・健康・社会の関係を体系的に理解する能力を有している。
- (5) 看護の目的と対象となる個人・家族・集団の特性を理解し、健康課題の特定と解決に必要な看護実践ができる基礎的能力を有している。
- (6) 保健医療福祉体制のもとで、看護職と他職種の役割について認識し、多職種とチーム連携・協働するために必要な基礎的能力を有している。
- (7) 自己の看護能力の向上のために、最新の知識・技術を学び続ける学修態度と看護の課題を発見し、課題を解決する能力を有している。

【栄養学科】

- (1) 職業人として、日本語および英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基礎を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断および表現する能力を有している。
- (2) 自己の良心と社会規範に従い、社会の一員としての責任感のもとに自己を統制し行動できるとともに、社会のために積極的に関与できる態度を有している。
- (3) 生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
- (4) 社会や環境の人間への影響、および健康との相互関係について基礎的な知識を有し、人間の生活の機構、環境の変化に対する機構、ならびに疾患の成因から治療、保健医療福祉体制について基礎的な知識を有している。
- (5) 栄養学、食品学の基礎的な知識・技術を有し、あらゆる健康レベルおよび全てのライフステージにある人々を対象に、栄養と食生活に関する課題を評価・判定し、適切な栄養・食事管理を総合的にマネジメントする基礎的な能力を有している。
- (6) 地域社会や職域等における健康・栄養問題とその要因を総合的に評価および判定し、効果的な教育や支援活動を実践できる基礎的な能力を有している。
- (7) 望ましい栄養状態、食生活の改善・管理を目的に、関連職種と連携・協働する基礎的な能力を有している。
- (8) 生涯にわたって自ら専門知識や技術の向上をめざして、自己研鑽する能力を有している。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）

人間は常に環境の影響を受け、健康はその相互作用によって変化します。「保健医療活動」は、健康の保持・増進、病気の予防、健康の回復を目的に人と環境に働きかけることで、最適な健康状態で生活が維持できるように特定専門分野の知識と技術をもって支援することです。

本学の教育課程は、保健医療における共通概念「人間」「環境」「健康」「保健医療活動」とその関係性を枠組みに、「看護」「栄養と食」に係る専門職業人の育成をめざしています。



本学は、教育課程の基本方針のもと、社会人としての基盤を形成する「基礎教育科目」群からなる基礎教育と看護職あるいは管理栄養士職としての専門職業人の基盤となる「専門基礎科目」「専門科目」群による専門教育で編成されています。

【看護学科】

●基礎教育

基礎教育は、本学部の共通教育課程として、看護学科と栄養学科において共通科目（一部除く）をもって構成されています。基礎教育課程は保健医療の共通概念である「人間」と「環境」を中心に、「学習と思考力」「言語と表現力」「人間と社会」の科目群から構成されています。

●専門教育

看護職としての基盤形成となる「専門基礎科目」および「専門科目」から編成されています。

- （1）専門基礎科目では、基礎教育科目の学修を活用しながら、看護学の理論と実践の支持基盤として「人間」「環境」「健康」の観点から保健医療福祉に関する学修をします。「個人と健康」「社会と健康」の科目群から構成されています。
- （2）専門科目では、基礎教育科目と専門基礎科目を基盤にして、看護学の理論と実践を体系的かつ系統的に学修します。「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」「看護の統合と探究」および「公衆衛生看護学」の科目群から構成されています。

【栄養学科】

●基礎教育

基礎教育は、本学部の共通教育課程として、看護学科と栄養学科において共通科目（一部除く）をもって構成されています。基礎教育課程は保健医療の共通概念である「人間」と「環境」を中心に、「学習と思考力」「言語と表現力」「人間と社会」の科目群から構成されています。

●専門教育

管理栄養士職としての基盤形成となる「専門基礎科目」および「専門科目」から編成されています。

- （1）専門基礎科目では、基礎教育科目の学修を活用しながら、専門科目を修得するうえでの基礎となる知識・技術の修得を目的として系統的に学修します。「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の科目群から構成されています。
- （2）専門科目では、基礎教育科目と専門基礎科目を基盤として、管理栄養士に求められる能力を身につけるために、体系的・実践的に学修します。「管理栄養士論」「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」「総合演習」「統合科目」「臨地実習」の科目群から構成されています。

3) アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）

本学は、保健医療（看護学、栄養学）の分野における学修と実践活動への意欲ならびに、それらを実現できる適性と能力を備え、特に本学への入学を希望する人を求めます。

- （1）確かな学力
基礎的な知識をもち、学習意欲が旺盛で、積極的に課題解決に取り組む人。
- （2）保健医療への関心
人々の健康と生活を支える保健医療への興味・関心をもっている人。
- （3）豊かな社会性
社会の一員として責任をもち、相手の立場になって考え、様々な人と協力し合いながら行動できる人。
- （4）強い向上心
保健医療に携わる専門職業人を通して社会の役に立ちたいという意欲をもち、生涯にわたり自己の向上に努力する人。

I-7 履修について

1) 学期

学年を分けて、次の2学期とします。

前期	後期
4月1日～9月30日	10月1日～3月31日

2) 修業年限・在学年限

●修業年限：4年（学則第14条）

4年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得した者に卒業を認定します。

●在学年限：8年（学則第15条）

8年を超えて在学することができません。8年で卒業できない場合は、除籍となります。

●休学期間：1年（学則第34条）

ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができます。通算して4年を超えることができません。

3) 授業科目

授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目および教職に関する科目になります。また、所定の単位数と授業回数が定められており、以下のとおり区分されています。

●必修科目：

卒業までに単位を修得しなければならない科目です。

●選択科目：

卒業までに定められた各区分の必要単位数以上を修得しなければならない科目です。

●選択必修科目：（栄養学科のみ）

選択必修科目として指定された科目の中から、必要単位数を修得しなければならない科目です。

4) 科目の履修および登録

●履修登録について

- (1) 履修をする科目は、履修登録をしなければなりません。各年次4月の履修登録期間内に1年分を本人が登録します。
- (2) 期間内に履修登録しなかった場合の履修は認められません。
- (3) 各学期の履修訂正期間に履修科目の変更(追加・取消)を行うことができます。
- (4) 在学する学年より上位学年に配当されている科目を履修登録することはできません。
- (5) 休学中または学費未納の学生は、履修登録および受講、試験の受験はできません。
- (6) 同一曜日で同一時限に2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- (7) 前年度までに履修し、単位を修得した科目を再度履修登録することはできません。
- (8) 1年間で履修登録可能な単位数には、上限があります(CAP制)。
- (9) 当該年度に単位を修得できず、翌年度以降に再度履修することを再履修といいます。

●CAP制について

大学で学修する講義・演習・実習・実験などの各授業科目には単位数が定められており、単位を修得するためには、大学における授業に加えて予習・復習からなる自己学習が必要です(p.14を参照)。

本学では、学修すべき授業科目を精選して十分な学修時間を確保し、授業内容を深く修得できることを目的にCAP制を導入しています。CAP制とは、各学年が履修できる一年間の総単位数に上限を設定することで、各学科のディプロマ・ポリシーを達成するための学修を計画的に進められるよう適切に授業科目を履修できることを目的とした制度です。1年間の履修科目登録単位の上限は、学科により異なります。また、4月に履修相談会を実施します。

なお、再履修科目はCAP制の対象外となります。

項目	看護学科	栄養学科
履修科目登録単位の上限 (1年間)	40 単位	45 単位
CAP制対象外の科目	・情報管理論 ・スポーツ理論 ・再履修科目	・栄養教諭一種免許取得に必要な科目 ・再履修科目
卒業要件単位に含まれない科目	・情報管理論 ・スポーツ理論	・栄養教諭一種免許取得に必要な科目

※編入生、転学科した学生は、「CAP制」の対象外になります。

I-8 授業について

1) 授業時間

授業時間は、1 時限 90 分を原則としています。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
授業時間	9:30～11:00	11:10～12:40	13:30～15:00	15:10～16:40	16:50～18:20

2) 休講・補講・補講等（補習）・集中講義

休講、補講、講義変更等の連絡は、掲示板でお知らせします。

休 講	担当教員等の都合により予定されていた授業が行われないことを「休講」といいます。
補 講	休講等により授業時間が不足した場合、授業回数を補うために「補講」が行われます。
補 講 等 (補習)	大学が認める特段の理由による欠席として扱われた場合に受けることができます。
集中講義	科目によっては、通常の時間割以外のある一定期間（長期休業日等）に集中して授業を行います。これを「集中講義」といいます。

3) 欠席の取扱い

- (1) 欠席により、授業への出席回数不足が生じると、失格となります。
- (2) 授業を欠席した場合は、欠席日を含めた原則 5 日以内に授業欠席届を学務課に提出してください。
- (3) 遅刻、早退などにより授業を 60 分以上受講しない場合は、欠席として取り扱います。
- (4) 下記の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った場合は、「大学が認める特段の理由」による欠席として扱われ、補講等の配慮を受けることができます。その際は、理由を明確にする証明書類を授業欠席届に添付のうえ、欠席日を含めた原則 5 日以内に学務課に提出してください。
- (5) 試験を欠席した場合は、p. 11 を確認してください。
- (6) 実習を欠席した場合は、p. 17 を確認してください。
- (7) その他、疾病等のやむを得ない事由で長期欠席（連続 7 日以上欠席）する場合は、長期欠席届を学務課へ提出してください。
- (8) 「大学が認める特段の理由」以外の授業の欠席については、特段の指示がない限り病院等の診断書は不要です。

大学が認める特段の理由による欠席の適用範囲

欠席事由	許可日数		必要添付書類等
災害、公共交通機関の障害	当該日のみ		・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書
忌引き	配偶者	7 日 以内	・新聞の死亡欄又は葬儀礼状等 ・保護者による証明書（要押印）
	一親等 父母、子	7 日 以内	
	二親等 祖父母、兄弟姉妹	3 日 以内	
インフルエンザ等の感染症による出席停止 （学生便覧参照）	医師の診断書により、出席停止を必要とされた期間に限る		・医師の診断書 ※病名、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要。 ・登校許可証明書（感染症用）等
その他教務委員会が認めた事由	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間に限る		・欠席事由を証明できる書類等
【提出期限】 ① 授業の場合：欠席日を含めた 原則 5 日以内 に「 授業欠席届 」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。 ② 試験の場合： 指定された日時 までに「 追試験受験願 」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。			

※新型コロナウイルス感染予防に関わる欠席については、別途提示します。

4) 欠席回数の自己管理について

- (1) 授業への出席回数不足（授業出席時間数とその授業時間数の 3 分の 2 未満）が生じると、単位を修得できません。出欠席回数については、学生各自の自己管理を徹底してください。
- (2) 科目担当教員や学務課から学生に対し、欠席回数に関する警告連絡はしません。出欠席については自己管理を徹底した上で、確認する場合は学生自身が直接科目担当教員に行ってください。

5) 天候による非常事態への対応

悪天候が予想される場合は、必ず下記の時刻に天気予報を確認してください。なお、休講措置については、確認の意味から学生緊急メールに一斉送信します。メールが受信できない学生は、必ず事前に設定を行っておいてください。

(1) 学生の休講措置の条件

午前7時および午前11時の時点で石狩中部（札幌市、江別市）または石狩全域に次のいずれかの特別警報または警報が発令された場合は、午前および午後の授業を休講にします。

確認時刻	休講する時限
午前7時	1・2時限の授業を休講にします。
午前11時	3・4・5時限の授業を休講にします。

(2) 発令警報の種類

- ①「暴風特別警報」または「大雨特別警報」が発令されている場合
- ②「暴風警報」と「大雨警報」が同時発令されている場合
- ③「大雪特別警報」または「大雪警報」が発令されている場合
- ④「暴風雪特別警報」または「暴風雪警報」が発令されている場合

※1. 注意報は該当しません。

※2. 日本気象協会では、石狩全域を次の3つに分類しています。

- ・石狩北部【石狩市、当別町、新篠津村】
- ・石狩中部【札幌市、江別市】
- ・石狩南部【千歳市、恵庭市、北広島市】

(3) 地震等の災害が発生した時に一斉に緊急メールを送信するので、その指示に従ってください。

6) 授業評価アンケート

履修しているすべての科目について、授業評価アンケートを行います。アンケートの結果は、データ化して記述式回答とともに各科目担当者へフィードバックし、今後の授業改善および組織的教育改善に活用します。集計結果は、掲示および図書館にて開示します。

I-9 試験について

1) 試験の種類・手続き

(1) 定期試験

原則として、学期末（前期末と後期末）の指定された期間に実施する試験です。ただし、学期途中で終了した科目については、学期末以外の時期に実施することがあります。

(2) 追試験

正当な理由によって、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を欠席した場合に実施する試験です。

評点の上限は、定期試験と同様の扱いとします。届け出をし、教務委員会に認められた場合、各科目 1 回限り受験することができます。

【追試験受験手続きの流れ】

①「大学が認める特段の理由」による欠席（p. 9 の欠席事由に該当）

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出		教務委員会で認められた場合	<u>無料</u> で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

②「やむを得ない事由」による欠席

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出		教務委員会で認められた場合	<u>1 科目 500 円</u> で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

※体調不良で定期試験を欠席した場合は、必ず病院等を受診し、診断書を追試験受験願に添付のうえ、学務課へ届け出てください。

診断書には、病名のほか、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要です。

受診日と診断結果、病名のみの診断書、また病院等を受診せず、市販薬の領収書等を添付しても証明書としては認められません。

(3) 再試験

定期試験において不合格となり、再試験の該当となった場合は、指定された日時までに学務課窓口にて、本人が受験手続きを行ってください。

受験料は 1 科目 2,200 円です。

再試験は、原則として各科目 1 回限り受験することができます。

なお、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を正当な理由なく欠席した場合は、再試験を受験することはできません。

2) 受験資格

以下のすべてに該当しなければ試験を受けることはできません。受験資格のない者が試験を受けても単位は与えられません。

- (1) 履修登録をしていること。
- (2) 講義、演習、実習および実技における授業出席時間数が、その授業実施時間数の3分の2以上であること。

授業で失格になる欠席回数	
8回実施科目の場合	4回の欠席で受験資格を失います。
15回実施科目の場合	6回の欠席で受験資格を失います。
30回実施科目の場合	11回の欠席で受験資格を失います。

- (3) 授業料その他納付金を納めていること。また、追・再試験の場合は、必要な手続きをしていること。
- (4) 学生証を提示していること。また、追・再試験の場合は、受験許可書または受験票とともに提示すること。

3) 試験の方法

試験は、以下のいずれかの方法で行います。

試験形式	①筆記試験、②口述試験、③レポート試験、④実技試験 ※各科目の試験方法は、シラバスの「評価方法・基準」にて確認してください。
------	---

4) 試験時間

試験の時間割は、必ず掲示で確認してください。

試験時間は、原則1時限60分ですが、科目によっては90分の場合もあります。なお、天候等により試験時間の開始時間が遅くなる場合があります。

時 限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
試験時間	9:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00

※また、試験規程第4条第2項に定めるとおり、定期試験は、科目担当責任者が必要と認める場合には、適宜行うことができる。その場合、手続き及び実施は、科目責任者の責任下で行うこととする。

5) 受験心得

受験にあたっては、下記の注意事項に十分留意のうえ、試験に臨んでください。
また、体調管理を行い、早めに登校するよう心がけてください。特に冬は交通機関の乱れが予想されますので注意が必要です。

- (1) 受験者は、必ず学生証を携行し、試験の際は、試験監督者の見やすい通路側の机上に提示しなければなりません。また、追・再試験の場合は、それぞれの受験許可書または受験票も必ず提示してください。
- (2) 学生証を紛失または忘れた場合は、学務課で仮学生証を発行します。仮学生証は、発行当日のみ有効で発行手数料は、500 円です。
- (3) 指定された座席で受験してください。教室に座席表が貼られるので確認のうえ着席してください。
- (4) 試験開始10分前には着席してください。
- (5) 試験開始後20分以上遅刻した者は、受験を認めません。遅刻による試験時間の延長も行いません。
- (6) 試験開始後30分が経過するまで及び試験終了5分前からは、退室を認めません。
- (7) 試験場における物品の賃借および私語を禁じます。
- (8) 答案用紙は、原則として再配布しません。
- (9) 机には、学生証（追試験・再試験受験票）、シャープペンシル、替え芯、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、時計（時計機能だけのもの）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）、科目担当教員から持ち込みを許可されたものを置くことができます。その他、事前に申請し教務委員会から持ち込みの許可を得たものを置くことができます。それ以外の持ち物は、すべて椅子の下に置いてください。
- (10) 携帯電話や音の出る機器は、電源を切り、かばんに入れてください。
- (11) 答案用紙を提出する場合は、試験監督者の指示する場所に提出してください。
- (12) 体調不良、トイレに行きたい場合などは、挙手をして試験監督者に申し出てください。ただし、原則再入室はできません。
- (13) その他、試験場においては、すべて試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為と同様に扱います。
- (14) 解答用紙には、必ず学籍番号と氏名を記載してください。

6) 不正行為

不正行為または疑わしい行為（試験監督者の指示に従わない者も含む）は、即時退室を命じ、それ以降の受験を停止するとともに、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第 46 条により、懲戒処分を行います。

＜不正行為の具体例＞

- (1) 問題用紙配付中、配付後及び回収中に、カンニング（ノートやテキストなどを机上等に置いたり見たりすること、他の学生答案等を見ること、人から答えを教わること）や話をする事。
- (2) 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- (3) 回収予定の問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- (4) 答案用紙を試験室から持ち出すこと。
- (5) 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- (6) 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、I C レコーダー等の電子機器類を使用すること。
- (7) 「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

I-10 単位・成績について

1) 単位について

単位とは、科目を修得するために必要な学習量を示すもので、単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとしています。例えば、1単位の講義の単位を修得するためには、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習の自己学習が伴った45時間の学修をし、授業実施時間数の3分の2以上出席して試験等の評価を受けて合格した場合に授与されます。本学では90分の授業で2時間相当の授業時間とみなしており、90分の講義に対して2時間の予習と2時間の復習が必要です。授業時間だけでなく、自学自習時間として、予習・復習を行う必要がありますので、以下に例を記載します。

(1) 授業形態ごとの単位の計算方法

単位数は、各授業科目に定められており、授業形態によって必要な学習時間が異なります。本学では、次の基準により計算しています（学則第24条）。

講義・演習	講義と演習は、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とします。
実験・実習・実技	実験・実習および実技は、45時間をもって1単位とします。
卒業研究等	卒業研究等の授業科目は、その学修の成果を考慮して単位数を定めます。

(2) 単位と自学自習時間について

区分	具体例	必要学修時間	授業時間	授業時間以外の 自学自習時間
講義	2単位の講義科目を修得するための学修時間	90時間 (45時間×2回)	30時間 (2時間×15回)	60時間 (4時間×15回)
演習	1単位の演習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1回)	30時間 (2時間×15回)	15時間 (1時間×15回)
実習	1単位の実習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1回)	45時間 (3時間×15回)	—

2) 単位修得に関する事項

(1) 成績評価

- ① 成績評点は100点満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とします。
- ② 成績は、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）で表示され、可以上を合格とします。
- ③ 追試験の評価は100点満点とし、再試験の評価上限は60点とします。
- ④ 修得した科目（単位）の成績評価は、成績表に記載されます。成績表には、過去に修得したすべての科目の成績が記載されています。

(2) GPA制度

本学はGPA制度を導入しています。GPA制度とは、学生が履修登録した全科目の成績評価、評定に対して点数（グレード・ポイント（以下GP））を設定し、履修登録科目単位数を基に平均値を算出し、履修計画や学修指導、保健師国家試験受験資格希望者選抜、就職活動の際の学校推薦者選抜などに役立てるものです。

GPAの最高値は「4.00」、最低値は「0.00」となります。

① 成績評価とG P

評価区分	評定（英語表記）	付加するG P
100～90 点	秀（S）	4
89～80 点	優（A）	3
79～70 点	良（B）	2
69～60 点	可（C）	1
60 点未満（59～0 点）	不可（D）	0
出席時間数の 2／3に満たない者	失格（P）	0
学期途中での休学、退学	評定不能（W）	0
既修得単位認定科目	認定（N）	G P Aの対象としない

② G P Aの算出方法

上表の「付加するG P」を基に計算を行います。

$$G P A = \frac{（「秀」の単位数 \times 4 + 「優」の単位数 \times 3 + 「良」の単位数 \times 2 + 「可」の単位数 \times 1）}{\text{総履修登録単位数}}$$

※算出された数値の小数点第3位以下は切り捨てる。

③ G P Aに関する注意事項

- 転学科（栄養学科）については、単位認定した科目の成績は「認定」となることから、G P A算出の対象になりません。
- 履修訂正期間内に取り消し手続きを行わなかった場合や履修放棄した場合などは、不合格科目もG P Aの算出に含まれます。履修をやめた科目や不必要な科目は、必ず履修登録の訂正期間に取り消しの手続きを行ってください。
- 累積成績に基づくG P Aを算出する際に、再履修科目が合格した場合は、当該科目を履修する以前に不合格となった科目（単位数）は計算式（分母）から除きます。
- 入学前に修得した単位のうち、本学で既修得単位と認定した科目は、G P Aの対象にはなりません。

（3）他大学等における科目の履修等（学則第26条参照）

- ① 教育上有益と認める時は、他大学等との協議に基づき、当該他大学等の科目を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度として卒業要件単位として認められる場合があります。

② 入学前の既修得単位の認定（学則第28条参照）

入学する前の大学または短期大学等において修得した単位について、審査を受け承認されると本学の科目として単位が認定されます。なお、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えることはできません。詳細は、「既修得単位認定規程」をご覧ください。

（4）転学科における科目の履修等

転学科前に在籍していた学科で履修した科目の単位認定は、該当科目において行われます。2年次以降の科目の履修については、担任または学務課で相談してください。

3）成績通知

最終評価が記載された成績表は、学期末の試験終了後に学生および保護者に通知します。

保護者への送付時期

- 前期：9月下旬
- 後期：3月下旬

Ⅱ 栄 養 学 科

Ⅱ-1 栄養学科の臨地実習（先修条件）

1) 実習の先修条件

臨地実習に係る科目を履修するためには、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目があり、『先修条件』として次のとおり細則で定めています。

臨地実習を受講する際は、各実習のオリエンテーションでの説明をよく聞いて臨んでください。臨地実習先（病院や施設など）や時期は、科目によって異なります。

科 目	先修条件 単位を修得しなければならない科目
給食経営管理論実習Ⅱ（3年次前期）	給食経営管理論Ⅰ（1年次後期）
	給食経営管理論Ⅱ（2年次前期）
	給食経営管理論実習Ⅰ（2年次後期）
公衆栄養学実習Ⅱ（4年次通年）	公衆栄養学Ⅰ（3年次前期）
	公衆栄養学Ⅱ（3年次後期）
	公衆栄養学実習Ⅰ（3年次後期）
給食経営管理論実習Ⅲ（4年次通年）	給食経営管理論実習Ⅱ（3年次前期）
臨床栄養学実習Ⅳ（4年次通年）	臨床栄養学Ⅰ（2年次後期）
	臨床栄養学Ⅱ（3年次前期）
	臨床栄養学実習Ⅰ（3年次前期）
臨床栄養学実習Ⅴ（4年次通年）	臨床栄養学Ⅲ（3年次後期）
	臨床栄養学実習Ⅱ（3年次後期）
	給食経営管理論実習Ⅱ（3年次前期）

2) 臨地実習における追実習と再実習について

（追実習）

臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後5日以内に学務課に提出する。
- ・所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目1回限り実習することができる。
- ・追実習は原則として履修登録した年度内の全実習終了後、実習施設との調整可能な期間に実施する。ただし、調整が不可能な場合は次年度に実施する。
- ・追実習の期間および日程、内容は当該科目欠席日数および学習状況により決定する。
- ・単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要である。
- ・評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

（再実習）

臨地実習における再実習とは、不合格（60点未満）となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・再実習は、履修登録した当該年度内に行うことはできない。
- ・当該年度内に単位が修得できなかった実習科目は、次年度に再履修登録を行い実習に臨まなければならない。
- ・単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要である。
- ・評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

Ⅱ-2 栄養学科の卒業要件・進級要件

1) 卒業要件

4年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得していることが必要です。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目	小計
必修単位	16 単位	40 単位	45 単位	101 単位
選択単位	11 単位以上	4 単位以上	7 単位以上	22 単位以上
選択必修単位 ※	—	—	「給食経営管理論実習Ⅲ」 または「公衆栄養学実習Ⅱ」の どちらか1単位を選択必修 科目として修得すること	1 単位
小 計	27 単位以上	44 単位以上	53 単位以上	124 単位以上
合 計	124 単位以上			

※選択必修科目として修得した科目は選択科目には振り替えられないので、注意すること。

2) 進級要件

上級学年に進級するためには、次の要件を満たしていることが必要です。

● 2年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
1 年以上	—	—	—

● 3年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
2 年以上	2 年次までに配当 されている必修科目 16 単位 選択科目 8 単位以上	2 年次までに配当されている必修科目 52 単位以上	

● 4年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
3 年以上	—	3 年次までに配当されている必修科目 74 単位以上	

※編入生については、「4 年次進級要件」は対象外になります。

Ⅱ-3 栄養学科の資格の取得

1) 栄養士免許

本学の保健医療学部栄養学科を卒業した者は、栄養士免許を取得できます。

(1) 免許証申請手続きの流れ (4年次に申請手続きを行います。)

時期 (予定)	内 容
12月	栄養士免許申請書類の提出・点検
2月	卒業判定会議で卒業の認定
3月	北海道(庁)から栄養士免許証を受理
3月	卒業式で栄養士免許証を交付

(2) 免許申請について

免許の申請は、大学が一括で行います。

2) 管理栄養士国家試験受験資格

本学の保健医療学部栄養学科を卒業した者は、管理栄養士の国家試験受験資格を取得することができます。

(1) 国家試験申請手続きの流れ (4年次に申請手続きを行います。)

時期 (予定)	内 容
11月	国家試験ガイダンスの実施
12月	大学から願書を一括提出
2月	卒業判定会議で卒業の認定
3月	管理栄養士国家試験
3月	国家試験合格発表

(2) 免許申請について

国家試験合格後の免許の申請は、各自で手続きすることになります。

3) 栄養教諭一種免許状

私たち人間は、食物を摂取し、「栄養」という営みに役立つ食物の成分を体内に取り入れて生命を維持しています。したがって、健康的に生きるためには、食生活で「栄養」に有用な食物成分を摂取することが不可欠です。しかし、近年、食生活の乱れが顕在化し、児童・生徒においても偏った食物成分の摂取による肥満や痩身が増加などの問題が生じ、家庭だけではなく、学校や地域においても健全な食習慣を身につけるための食育を推進していく必要性が高まり、2005 年に栄養教諭制度が創設されました。

栄養教諭とは、学校(小学校・中学校・特別支援学校等)において、食育を推進する重要な役割を担う教諭で、「教育に関する資質」と「栄養に関する専門性」を併せ持ち、学校給食を生きた教材として活用し、効果的な教育を行うことが期待されています。

栄養教諭の職務内容には、「食に関する指導」と「学校給食の管理」があります。「食に関する指導」とは、①児童生徒への個別的な相談指導、②児童生徒への教科・特別活動等における教育指導、③食に関する教育指導の連携・調整です。「学校給食の管理」とは、①学校給食に関する基本計画の策定への参画、②栄養管理(基準に適した献立の作成、③衛生管理(点検、指導等)、④学校給食の検食、検査用保存食の管理、⑤使用食材料の選定、購入、保管等、⑥調理従事者への指導等が示されています。

所定の手続きを経た上で、必要な科目の単位を修得して、本学の保健医療学部栄養学科を卒業した者は、「栄養教諭一種免許状」を取得できます。免許状取得に必要な科目と単位数は、別表 1 のとおりです。

【2019 年度以降入学生対象】

別表 1 栄養教諭一種免許状取得に必要な科目及び単位数

栄養に係る教育に関する科目（4 単位）

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目		
各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
			必修	選択
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 食生活に関する歴史的及び文化的事項	4	食生活論	2	
食に関する指導の方法に関する事項		食育指導論	2	

教職に関する科目（18 単位）

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
				必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理	1	
	教職の意義及び教育の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度論	1	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	1	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育論	1	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		特別活動・総合的な学習指導論	1	
	生徒指導の理論及び方法		教育方法論	1	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		生徒指導論	1	
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	教育相談論	2	
	教職実践演習	2	栄養教育実習事前・事後指導	1	
			栄養教育実習	1	
			教職実践演習	2	

教員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（8 単位）

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目		
各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
			必修	選択
日本国憲法	2	法と人権	2	
体育	2	スポーツ理論	1	
		スポーツ科学と運動	1	
外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ（基礎）	1	
		英語Ⅱ（会話）	1	
情報機器の操作	2	情報処理	1	
		情報リテラシー	1	

4) 食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）

本学の保健医療学部栄養学科を「有機化学」の単位を修得し卒業した者は、食品衛生管理者、食品衛生監視員の任用資格を取得することができます。

食品衛生管理者は、食品衛生法第48条の規定により、製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物であって、食品衛生法施工令で定めるものの製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置かなければならないことになっています。営業者は、本任用資格者を食品衛生管理者として置き、15日以内に都道府県知事（保健所）に届け出を行います。

なお、食品衛生監視員は公務員で、国家公務員の場合は、輸入食品の安全監視および指導（輸入食品監視業務）、輸入食品等に係る微生物検査と理化学検査（検査業務）、検疫感染症の国内への侵入防止（検疫衛生業務）などの業務に従事します。

地方公務員の場合は、保健所等に勤務し、飲食店等の営業施設の許可事務と監視および指導、食品検査、食品に関する苦情や相談への対応などを行います。

北海道の場合は、「食品衛生監視等の業務に従事する管理栄養士」など、職種で募集を行っています。年度によって採用募集方法の変更が生じますので北海道のHPで確認してください。

食品衛生管理者・監視員に係る資格取得指定科目一覧表

食品衛生法施行規則 別表第十四（第五十条関係）					
学 科	科 目	本学履修科目	単 位 数		開講 年次
			必修	選択	
化学関係	有機化学	有機化学		2	1
	無機化学	基礎化学	2		1
生物化学関係	生物化学	生化学Ⅰ	2		1
		生化学Ⅱ	2		2
		生化学実験	1		2
	食品化学	食品科学Ⅰ	2		1
		食品科学Ⅱ	2		1
		食品科学実験Ⅰ	1		1
		食品科学実験Ⅱ	1		3
微生物関係	微生物学	微生物学	2		1
		微生物学実験	1		1
公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2		2
		公衆衛生学実習	1		2
	食品衛生学	食品衛生学	2		2
		食品衛生学実験	1		2
		合計単位数	22	2	—

食品衛生法施行規則 別表第十五（第五十条関係）					
学 科	科 目	本学履修科目	単 位 数		開講 年次
			必修	選択	
その他の関連科目	病理学	病理学	2		2
	産業医学	健康管理概論	2		2
	栄養化学	臨床栄養学Ⅱ	2		3
	栄養学	基礎栄養学	2		1
		基礎栄養学実験	1		2
		応用栄養学Ⅰ	2		2
		応用栄養学Ⅱ	2		2
		応用栄養学Ⅲ	2		3
		応用栄養学実習	1		3
		衛生管理学	給食経営管理論Ⅰ	2	
	給食経営管理論Ⅱ		2		2
	給食経営管理論実習Ⅰ		1		2
		合計単位数	21	0	—

総修得可能単位数	45
----------	----

Ⅱ－４ 教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

2018年度入学生 栄養学科

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								卒業必要単位数	
						1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	講義	1		15									
		論理的思考	講義	2		30									
		情報処理	演習	1		30									●
		統計分析法	演習	1			30								
		情報リテラシー	演習		1		30								●
		生物学	講義		1	15									
	言語と表現力	基礎化学	講義	2		30									
		英語Ⅰ(基礎)	演習	1		30									●
		英語Ⅱ(会話)	演習	1			30								●
		英語Ⅲ(読解)	演習		1			30							
		英語Ⅳ(総合)	演習		1							30			
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	演習	1		30									
	人間と社会	表現技法Ⅱ(討議・発表)	演習	1			30								
		心理学	講義	2		30									
		倫理学	講義	1		15									
		生態学	講義		1	15									
		スポーツ科学と運動	演習		1		30								●
		スポーツ理論	講義		1		15								●
		地域社会文化論	講義		2		30								
		社会貢献と活動	演習		1			30							
		生活環境論	講義		2			30							
		現代社会論	講義	2			30								
		国際社会論	講義		1								15		
		法と人権	講義		2		30								●
		教育学	講義		1				15						
		文学と人間	講義		1								15		
	小 計 (26科目)				16	17									
専門基礎科目	社会・環境と健康	生涯発達論	講義		1	15									
		人間関係論	講義	1		15									
		生命倫理	講義		1			15							
		医療概論	講義		2			30							
		健康管理概論	講義	2					30						
		公衆衛生学	講義	2				30							
		公衆衛生学実習	実習	1					45						
		保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1							15				
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	保健医療福祉行政論Ⅱ	講義		2							30			
		形態機能学Ⅰ	講義	2		30									
		形態機能学Ⅱ	講義	2			30								
		形態機能学実習Ⅰ	実習	1					45						
		形態機能学実習Ⅱ	実習	1						45					
		有機化学	講義		2	30									
		病理学	講義	2				30							
		微生物学	講義	2			30								
		微生物学実験	実験	1			45								
		生化学Ⅰ	講義	2			30								
		生化学Ⅱ	講義	2				30							
		生化学実験	実験	1				45							
		食べ物と健康	病態診療学Ⅰ	講義	2					30					
	病態診療学Ⅱ		講義	2						30					
	食品科学Ⅰ		講義	2		30									
	食品科学Ⅱ		講義	2			30								
	食品科学Ⅲ		講義		2				30						
	食品科学実験Ⅰ		実験	1			45								
	食品科学実験Ⅱ		実験	1						45					
	食品機能学		講義		2							30			
	食品衛生学		講義	2				30							
	食品衛生学実験		実験	1				45							
	調理学		講義	2		30									
	調理学実習Ⅰ		実習	1		45									
	調理学実習Ⅱ		実習	1			45								
	小 計 (33科目)				40	12									

教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

2018年度入学生 栄養学科

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								栄養教諭 一種免許 取得希望者	卒業必要単位数
						1年		2年		3年		4年			
						必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	管理栄養士論	管理栄養士論	講義	1		15									
		管理栄養士総合演習	演習	1								30			
	基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2			30								
		基礎栄養学実験	実験	1				45							
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	講義	2				30							
		応用栄養学Ⅱ	講義	2					30						
		応用栄養学Ⅲ	講義	2						30					
		応用栄養学実習	実習	1							45				
		免疫と栄養	講義		1						15				
		スポーツ栄養学	講義		1						15				
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	講義	2				30							
		栄養教育論Ⅱ	講義	2					30						
		栄養教育論Ⅲ	講義	2						30					
		栄養教育論実習	実習	1							45				
		栄養カウンセリング演習	演習		1					30					
		食生活論	講義		2					30				●	
	臨床栄養学	食育指導論	講義		2						30			●	
		臨床栄養学Ⅰ	講義	2					30						
		臨床栄養学Ⅱ	講義	2						30					
		臨床栄養学Ⅲ	講義	2							30				
		臨床栄養学Ⅳ	講義	2								30			
		臨床栄養学実習Ⅰ	実習	1						45					
		臨床栄養学実習Ⅱ	実習	1							45				
	公衆栄養学	臨床栄養学実習Ⅲ	実習	1								45			
		公衆栄養学Ⅰ	講義	2						30					
		公衆栄養学Ⅱ	講義	2							30				
		公衆栄養学実習Ⅰ	実習	1							45				
		地域栄養活動演習	演習		1							30			
	給食経営管理論	国際栄養学	講義		1								15		
		給食経営管理論Ⅰ	講義	2				30							
		給食経営管理論Ⅱ	講義	2					30						
		給食経営管理論実習Ⅰ	実習	1						45					
		総合演習Ⅰ	演習	1							30				
	総合演習	総合演習Ⅱ	演習	1								30			
		統合科目	英語文献講読演習	演習		1						30			
	統合科目	卒業研究	演習		2								60		
		臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	実習	1						45				
	給食経営管理論実習Ⅲ		実習		△1							45			
	公衆栄養学実習Ⅱ		実習		△1							45			
	臨床栄養学実習Ⅳ		実習	2								90			
	臨床栄養学実習Ⅴ		実習		2							90			
小 計 (41科目)				45	16										
合 計 (100科目)				101	45									合計124単位以上	
栄養教諭一種免許取得に必要な科目	教職概論	講義		2		30								●	
	教育原理	講義		1			15							●	
	教育制度論	講義		1			15							●	
	教育課程論	講義		1				15						●	
	教育方法論	講義		1				15						●	
	道徳教育論	講義		1				15						●	
	特別活動論	講義		1					15					●	
	生徒指導論	講義		2					30					●	
	教育心理学	講義		2						30				●	
	教育相談論	講義		2							30			●	
	栄養教育実習事前・事後指導	実習		1								45		●	
	栄養教育実習	演習		1								45		●	
	教職実践演習	演習		2									60	●	
	合 計 (14科目)					18									

Ⅱ－４ 教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

2019・2020年度入学生 栄養学科

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								栄養教諭 一種免許 取得希望者	卒業必要単位数
						1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	講義	1		15									
		論理的思考	講義	2		30									
		情報処理	演習	1		30								●	
		統計分析法	演習	1			30								
		情報リテラシー	演習		1		30							●	
		生物学	講義		1	15									
	基礎化学	講義	2		30										
	言語と表現力	英語Ⅰ(基礎)	演習	1		30								●	
		英語Ⅱ(会話)	演習	1			30							●	
		英語Ⅲ(読解)	演習		1			30							
		英語Ⅳ(総合)	演習		1							30			
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	演習	1		30									
		表現技法Ⅱ(討議・発表)	演習	1			30								
	人間と社会	心理学	講義	2		30									
		倫理学	講義	1		15									
		生態学	講義		1	15									
		スポーツ科学と運動	演習		1		30							●	
		スポーツ理論	講義		1		15							●	
		地域社会文化論	講義		2		30								
		社会貢献と活動	演習		1			30							
		生活環境論	講義		2			30							
		現代社会論	講義	2				30							
		国際社会論	講義		1								15		
		法と人権	講義		2		30							●	
		教育学	講義		1				15						
		文学と人間	講義		1								15		
		小 計 (26科目)				16	17								
専門基礎科目	社会・環境と健康	生涯発達論	講義		1	15									
		人間関係論	講義	1		15									
		生命倫理	講義		1			15							
		医療概論	講義		2			30							
		健康管理概論	講義	2					30						
		公衆衛生学	講義	2				30							
		公衆衛生学実習	実習	1					45						
		保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1							15				
	保健医療福祉行政論Ⅱ	講義		2							30				
	人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ	講義	2		30									
		形態機能学Ⅱ	講義	2			30								
		形態機能学実習Ⅰ	実習	1					45						
		形態機能学実習Ⅱ	実習	1						45					
		有機化学	講義		2	30									
		病理学	講義	2				30							
		微生物学	講義	2			30								
		微生物学実験	実験	1			45								
		生化学Ⅰ	講義	2		30									
		生化学Ⅱ	講義	2				30							
		生化学実験	実験	1				45							
		病態診療学Ⅰ	講義	2					30						
		病態診療学Ⅱ	講義	2						30					
		食べ物と健康	食品科学Ⅰ	講義	2		30								
	食品科学Ⅱ		講義	2			30								
	食品科学Ⅲ		講義		2				30						
	食品科学実験Ⅰ		実験	1			45								
	食品科学実験Ⅱ		実験	1						45					
	食品機能学		講義		2							30			
	食品衛生学		講義	2				30							
	食品衛生学実験		実験	1				45							
	調理学		講義	2		30									
	調理学実習Ⅰ		実習	1		45									
	調理学実習Ⅱ		実習	1			45								
小 計 (33科目)				40	12										

教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

2019・2020年度入学生 栄養学科

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								栄養教諭 一種免許 取得希望者	卒業必要単位数
						1年		2年		3年		4年			
						必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	管理栄養士論	管理栄養士論	講義	1		15									
		管理栄養士総合演習	演習	1								30			
	基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2			30								
		基礎栄養学実験	実験	1				45							
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	講義	2				30							
		応用栄養学Ⅱ	講義	2					30						
		応用栄養学Ⅲ	講義	2						30					
		応用栄養学実習	実習	1							45				
		免疫と栄養	講義		1						15				
		スポーツ栄養学	講義		1						15				
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	講義	2				30							
		栄養教育論Ⅱ	講義	2					30						
		栄養教育論Ⅲ	講義	2						30					
		栄養教育論実習	実習	1							45				
		栄養カウンセリング演習	演習		1					30					
		食生活論	講義		2					30				●	
		食育指導論	講義		2						30			●	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	講義	2					30						
		臨床栄養学Ⅱ	講義	2						30					
		臨床栄養学Ⅲ	講義	2							30				
		臨床栄養学Ⅳ	講義	2								30			
		臨床栄養学実習Ⅰ	実習	1						45					
		臨床栄養学実習Ⅱ	実習	1							45				
		臨床栄養学実習Ⅲ	実習	1								45			
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	講義	2						30					
		公衆栄養学Ⅱ	講義	2							30				
		公衆栄養学実習Ⅰ	実習	1							45				
		地域栄養活動演習	演習		1							30			
		国際栄養学	講義		1								15		
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	講義	2			30								
		給食経営管理論Ⅱ	講義	2				30							
		給食経営管理論実習Ⅰ	実習	1					45						
	総合演習	総合演習Ⅰ	演習	1						30					
		総合演習Ⅱ	演習	1								30			
	統合科目	英語文献講読演習	演習		1						30				
		卒業研究	演習		2								60		
	臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	実習	1						45					
		給食経営管理論実習Ⅲ	実習		△1								45		
		公衆栄養学実習Ⅱ	実習		△1								45		
		臨床栄養学実習Ⅳ	実習	2									90		
		臨床栄養学実習Ⅴ	実習		2								90		
小 計 (41科目)				45	16										
合 計 (100科目)				101	45										合計124単位以上
栄養教諭一種免許取得に必要な科目	教職概論	講義		2	30									●	
	教育原理	講義		1		15								●	
	教育制度論	講義		1		15								●	
	教育課程論	講義		1			15							●	
	教育方法論	講義		1			15							●	
	道德教育論	講義		1			15							●	
	特別活動・総合的学習指導論	講義		1				15						●	
	生徒指導論	講義		1				15						●	
	特別支援教育概論	講義		1					15					●	
	教育心理学	講義		2					30					●	
	教育相談論	講義		2						30				●	
	栄養教育実習事前・事後指導	実習		1							45			●	
	栄養教育実習	実習		1								45		●	
	教職実践演習	演習		2								60		●	
合 計 (14科目)					18										

Ⅱ－５ 科目配置表

2018年度入学生 栄養学科

区 分		1 年次				2 年次			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
基礎教育科目	基礎	学習と思考力	1 2 1 * (1) 2	統計分析法 情報リテラシー	1 (1) *				
	基礎	言語と表現力	英語Ⅰ(基礎) 表現技法Ⅰ(読解・分析)	英語Ⅱ(会話) 表現技法Ⅱ(討議・発表)	1 * 1	英語Ⅲ(読解)	(1)		
	基礎	人間と社会	心理学 倫理学 生態学	スポーツ科学と運動 スポーツ理論 地域社会文化論 法と人権	(1) * (1) * (2) (2) *	社会貢献と活動 生活環境論 現代社会論	(1) (2) 2	教育学	(1)
	小 計 (内選択科目計)	10科目 (選択2科目)	13	8科目 (選択5科目)	10	4科目 (選択3科目)	6	1科目 (選択1科目)	1
	専門	社会・環境 と健康	生涯発達論 人間関係論			生命倫理 医療概論 公衆衛生学	(1) (2) 2	健康管理概論 公衆衛生学実習	2 1
基礎科目	基礎	人体の構造と 機能及び疾病の 成り立ち	形態機能学Ⅰ 有機化学	形態機能学Ⅱ 微生物学 微生物学実験 生化学Ⅰ	2 2 1 2	形態機能学実習Ⅰ 病理学 生化学Ⅱ 生化学実験	1 2 2 1	形態機能学実習Ⅱ 病態診療学Ⅰ	1 2
	基礎	食べ物と健康	食品科学Ⅰ 調理学 調理学実習Ⅰ	食品科学Ⅱ 食品科学実験Ⅰ 調理学実習Ⅱ	2 1 1	食品衛生学 食品衛生学実験	2 1	食品科学Ⅲ	(2)
	小 計 (内選択科目計)	7科目 (選択2科目)	11	7科目	11	9科目 (選択2科目)	14	5科目 (選択1科目)	8
	専門	管理栄養士論	管理栄養士論						
	基礎	基礎栄養学		基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1		
専門科目	専門	応用栄養学				応用栄養学Ⅰ	2	応用栄養学Ⅱ	2
	専門	栄養教育論				栄養教育論Ⅰ	2	栄養教育論Ⅱ	2
	専門	臨床栄養学						臨床栄養学Ⅰ	2
	専門	公衆栄養学							
	専門	給食経営管理論 総合演習		給食経営管理論Ⅰ	2	給食経営管理論Ⅱ	2	給食経営管理論実習Ⅰ	1
専門科目	専門	統合科目							
	専門	臨地実習							
	小 計 (内選択科目計)	1科目	1	2科目	4	4科目	7	4科目	7
合 計		18科目 (選択4科目)	25	17科目 (選択5科目)	25	17科目 (選択5科目)	27	10科目 (選択2科目)	16
栄養教諭一種免許取得 申請に必要な科目		教職概論	(2)	教育原理 教育制度論	(1) (1)	教育課程論 教育方法論 道德教育論	(1) (1) (1)	特別活動論 生徒指導論	(1) (2)
合 計		1科目 (選択1科目)	2	2科目 (選択2科目)	2	3科目 (選択3科目)	3	2科目 (選択2科目)	3

1. 単位数の(数字)は選択科目、その他は必修科目である。
2. 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
3. 通年科目の単位数は該当年次の後期に単位数が記載されている。(通年科目の前期の単位数には数字を記載せず、必修は「－」、選択は「()」を記載している。)
4. 「※」科目は、栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目にも該当
5. 1年次科目「栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目(3科目)」と、1年次後期科目「情報リテラシー」は、2年次の教職課程履修者においては履修が可能。

科目配置表

区 分			3 年次				4 年次				単位計 (内選択計)
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
基礎教育	基礎教育科目	学習と思考力								9 (選択2)	
		言語と表現力						英語Ⅳ(総合)	(1)	6 (選択2)	
		人間と社会						国際社会論 文学と人間	(1) (1)	5 (選択13)	
	小 計		0		0		0	3科目 (選択3科目)	3	33 (選択17)	
専門教育	専門基礎科目	社会・環境と健康			保健医療福祉行政論	1	保健医療福祉行政論	(2)			13 (選択6)
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	病態診療学Ⅱ	2							22 (選択2)
		食べ物と健康	食品科学実験Ⅱ	1			食品機能学	(2)			17 (選択4)
		小 計	2科目	3	1科目	1	2科目 (選択2科目)	4		0	52 (選択12)
	専門科目	管理栄養士論					管理栄養士総合演習	－	管理栄養士総合演習	1	2
		基礎栄養学									3
		応用栄養学	応用栄養学Ⅲ	2	応用栄養学実習 免疫と栄養 スポーツ栄養学	1 (1) (1)					9 (選択2)
		栄養教育論	栄養教育論Ⅲ 栄養カウンセリング演習 食生活論	2 (1) (2) *	栄養教育論実習 食育指導論	1 (2) *					12 (選択5)
		臨床栄養学	臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ	2 1	臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	2 1	臨床栄養学Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅲ	2 1			11
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ	2 1	地域栄養活動演習	(1)	国際栄養学	(1)	7 (選択2)
		給食経営管理論									5
		総合演習	総合演習Ⅰ	1			総合演習Ⅱ	1			2
		統合科目			英語文献講読演習	(1)	卒業研究	()	卒業研究	(2)	3 (選択3)
		臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	1			給食経営管理論実習Ⅲ 公衆栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	() ※ () ※ － ()	給食経営管理論実習Ⅲ 公衆栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	(1) ※ (1) ※ 2 (2)	7 (選択4)
		小 計 (内選択科目計)	9科目 (選択2科目)	14	10科目 (選択4科目)	13	10科目 (選択5科目)	5	7科目 (選択5科目)	10	61 (選択16)
		合 計	11科目 (選択2科目)	17	11科目 (選択4科目)	14	12科目 (選択7科目)	9	10科目 (選択8科目)	13	146 (選択45)
栄養教諭一種免許所得 申請に必要な科目			教育心理学	(2)	教育相談論	(2)	栄養教育実習事前・事後指導 栄養教育実習	() ()	栄養教育実習事前・事後指導 栄養教育実習 教職実践演習	(1) (1) (2)	18 (選択18)
合 計			1科目 (選択1科目)	2	1科目 (選択1科目)	2	2科目 (選択2科目)	0	3科目 (選択3科目)	4	18 (選択18)

Ⅱ-5 科目配置表

2019・2020年度入学生 栄養学科

区 分			1 年次				2 年次								
			前期		単位	後期		単位	前期		単位	後期		単位	
基礎教育科目	基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1 (1) *									
			論理的思考	2										情報リテラシー	
			情報処理	1 *											
	生物学	(1)													
基礎化学	2														
		言語と表現力	英語Ⅰ(基礎)	1 *	英語Ⅱ(会話)	1 *	英語Ⅲ(読解)	(1)							
			表現技法Ⅰ(読解・分析)	1	表現技法Ⅱ(討議・発表)	1									
			心理学	2	スポーツ科学と運動	(1) *	社会貢献と活動	(1)	教育学	(1)					
		人間と社会	倫理学	1	スポーツ理論	(1) *	生活環境論	(2)							
			生態学	(1)	地域社会文化論	(2)	現代社会論	2							
			法と人権	(2) *											
小 計 (内選択科目計)			10科目 (選択2科目)		13	8科目 (選択5科目)		10	4科目 (選択3科目)		6	1科目 (選択1科目)		1	
専門教育科目	専門基礎科目	社会・環境 と健康	生涯発達論	(1)			生命倫理	(1)	健康管理概論	2					
			人間関係論	1			医療概論	(2)	公衆衛生学実習	1					
							公衆衛生学	2							
	人体の構造と 機能及び疾病の 成り立ち	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	形態機能学実習Ⅰ	1	形態機能学実習Ⅱ	1						
		有機化学	(2)	微生物学	2	病理学	2	病態診療学Ⅰ	2						
				微生物学実験	1	生化学Ⅱ	2								
				生化学Ⅰ	2	生化学実験	1								
	食べ物と健康	食品科学Ⅰ	2	食品科学Ⅱ	2	食品衛生学	2	食品科学Ⅲ	(2)						
		調理学	2	食品科学実験Ⅰ	1	食品衛生学実験	1								
		調理学実習Ⅰ	1	調理学実習Ⅱ	1										
	小 計 (内選択科目計)			7科目 (選択2科目)		11	7科目		11	9科目 (選択2科目)		14	5科目 (選択1科目)		8
	専門科目		管理栄養士論	管理栄養士論	1										
			基礎栄養学		基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1							
			応用栄養学				応用栄養学Ⅰ	2	応用栄養学Ⅱ	2					
			栄養教育論				栄養教育論Ⅰ	2	栄養教育論Ⅱ	2					
臨床栄養学								臨床栄養学Ⅰ	2						
公衆栄養学															
		給食経営管理論		給食経営管理論Ⅰ	2	給食経営管理論Ⅱ	2	給食経営管理論実習Ⅰ	1						
		総合演習													
		統合科目													
		臨地実習													
小 計 (内選択科目計)			1科目		1	2科目		4	4科目		7	4科目		7	
合 計			18科目 (選択4科目)		25	17科目 (選択5科目)		25	17科目 (選択5科目)		27	10科目 (選択2科目)		16	
栄養教諭一種免許所得 申請に必要な科目			教職概論	(2)	教育原理 教育制度論	(1) (1)	教育課程論 教育方法論 道徳教育論	(1) (1) (1)	特別活動・総合的学習指導論 生徒指導論 特別支援教育概論	(1) (1) (1)					
合 計			1科目 (選択1科目)		2	2科目 (選択2科目)		2	3科目 (選択3科目)		3	3科目 (選択3科目)		3	

1. 単位数の（数字）は選択科目、その他は必修科目である。
2. 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
3. 通年科目の単位数は該当年次の後期に単位数が記載されている。（通年科目の前期の単位数には数字を記載せず、必修は「－」、選択は「（）」を記載している。）
4. 「＊」科目は、栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目にも該当
5. 1 年次科目「栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目(3科目)」と、1 年次後期科目「情報リテラシー」は、2 年次の教職課程履修者においては履修が可能。

科目配置表

区 分			3年次				4年次				単位計 (内選択計)	
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎教育	基礎教育科目	学習と思考力								9 (選択2)		
		言語と表現力						英語Ⅳ(総合)	(1)	6 (選択2)		
		人間と社会						国際社会論 文学と人間	(1) (1)	5 (選択13)		
	小 計			0		0		0	3科目 (選択3科目)	3	33 (選択17)	
専門教育	専門基礎科目	社会・環境と健康		保健医療福祉行政論	1	保健医療福祉行政論	(2)				13 (選択6)	
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	2								22 (選択2)	
		食べ物と健康	1			食品機能学	(2)				17 (選択4)	
		小 計		2科目	3	1科目	1	2科目 (選択2科目)	4		0	52 (選択12)
	専門科目	管理栄養士論				管理栄養士総合演習	－	管理栄養士総合演習	1		2	
		基礎栄養学									3	
		応用栄養学	応用栄養学Ⅲ	2	応用栄養学実習 免疫と栄養 スポーツ栄養学	1 (1) (1)					9 (選択2)	
		栄養教育論	栄養教育論Ⅲ 栄養カウンセリング演習 食生活論	2 (1) (2) *	栄養教育論実習 食育指導論	1 (2) *					12 (選択5)	
		臨床栄養学	臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ	2 1	臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	2 1	臨床栄養学Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅲ	2 1			11	
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ	2 1	地域栄養活動演習	(1)	国際栄養学	(1)	7 (選択2)	
		給食経営管理論									5	
		総合演習	総合演習Ⅰ	1			総合演習Ⅱ	1			2	
		統合科目			英語文献講読演習	(1)	卒業研究	()	卒業研究	(2)	3 (選択3)	
		臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	1			給食経営管理論実習Ⅲ 公衆栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	() ※ () ※ － ()	給食経営管理論実習Ⅲ 公衆栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	(1) ※ (1) ※ 2 (2)	7 (選択4)	
		小 計 (内選択科目計)		9科目 (選択2科目)	14	10科目 (選択4科目)	13	10科目 (選択5科目)	5	7科目 (選択5科目)	10	61 (選択16)
		合 計		11科目 (選択2科目)	17	11科目 (選択4科目)	14	12科目 (選択7科目)	9	10科目 (選択8科目)	13	146 (選択45)
栄養教諭一種免許所得 申請に必要な科目		教育心理学	(2)	教育相談論	(2)	栄養教育実習事前・事後指導 栄養教育実習	() ()	栄養教育実習事前・事後指導 栄養教育実習 教職実践演習	(1) (1) (2)	18 (選択18)		
合 計		1科目 (選択1科目)	2	1科目 (選択1科目)	2	2科目 (選択2科目)	0	3科目 (選択3科目)	4	18 (選択18)		

Ⅱ-6 オフィスアワー

教員が特定の曜日・時間を定め、学生からの授業や学生生活全般に関する質問、相談に応じるシステムです。

面接を希望する学生は、各教員の実施方法を確認のうえ、面談希望教員と連絡を取り面談日を調整してください。

未決定の教員は、決定後、掲示にてお知らせします。

時間帯（①②方式）

① 1週間のうち、一定期間を教員の個々のスケジュールにより決定しています。

② 特に時間を設定していません。

面談方式（ab方式）

a オープン方式：学生は自由に教員を訪問することができます。

b アポイント方式：学生が各教員とアポイントを取ったうえで訪問することができます。

（メールアドレスを参考にしてください。）

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
基礎看護学分野	教授 (学長)	オヒナタ テルミ 大日向 輝美	月～金	②	b	oohinata.t@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	4101
基礎教育分野	教授	スエシ アツオ 末光 厚夫	月～金	②	b	sue@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1314
	教授	マツオ フミコ 松尾 文子	月～金	②	b	fmatsuo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1221
専門基礎教育分野	教授	イエコ マサヒロ 家子 正裕	火 以外	②	b	masa2023@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1211
基礎看護学分野	准教授	シュドウ エリカ 首藤 英里香	月～金	②	b	eshudo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1217
	講師	ソノダ リコ 園田 典子	月～金	②	b	sonoda@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1214
	講師	モトヨシ アケミ 本吉 明美	月～金	②	a	a-motoyoshi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1215
	助教	ヨコヤマ ケイコ 横山 桂子	月～金	②	a	yokoyama@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
成人看護学分野	教授	フジイ ミヅエ 藤井 瑞恵	月～金	②	b	fujii@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1315
	准教授	オノ ユウキ 小野 善昭	月～金	②	b	ono-y@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1321
	講師	イトウ マドカ 伊藤 円	月～金	②	a	m-ito@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1323
	講師	カト タクト 加藤 剛寿	月～金	②	b	kato-t@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1322
	助教	イケノ コウヘイ 池野 航平	月～金	②	a	ikeno@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
	助教	イマイズミ リエ 今泉 里絵	月～金	②	a	imaizumi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
高齢者看護学分野	教授	ハツリ ユカリ 服部 ユカリ	月～金	②	b	luna@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1212
	准教授	ナカ タマイ 中田 真依	月～金	②	a	mainakata@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1319
	助教	ナカ タケノブ 中武 延	月～金	②	a	nakatake@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
母性看護学分野	教授	サイトウ サカエ 齋藤 早香枝	月～金	②	a	sasai@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1218
	准教授	サワダ ムミ 澤田 優美	月～金	②	b	sawada@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1213
	教授	ノザキ ユキ 野崎 由希子	月～金	②	a	nozaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
小児看護学分野	教授	カワサキ カズコ 河崎 和子	月	16:00～ 17:30	b	kawasaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1313
	助教	ササキ 佐々木 めぐみ	月～金	②	a	sasaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
精神看護学分野	准教授	ハラダ ユカ 原田 由香	月～金	②	b	harada@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1312
	助教	タカハシ マサキ 高橋 正樹	月～金	②	b	masaki-ta@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
総合看護学分野	教授	キヅ ユミ 木津 由美子	月	12:40～ 13:30	a	kizu@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1316
	講師	ヨシダ ユウコ 吉田 祐子	月～金	②	b	yuko-y@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1317
地域看護学分野	教授	コンドウ アキヨ 近藤 明代	月～金	②	a	kondoh@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1220
	准教授	アンドウ ヨウコ 安藤 陽子	月～金	②	a	ando@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1219
	准教授	タケザワ チヒロ 武澤 千尋	月～金	②	b	c-takezawa@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1311
	講師	オガワ カツコ 小川 克子	月～金	②	a	k.ogawa@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1222
	講師	カワガuchi ケイジ 川口 桂嗣	水	12:40～ 13:30	a	k-kawaguchi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1320
	講師	サクナミ アキコ 作並 亜紀子	月～金	②	a	sakunami@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1216

オフィスアワー

栄養学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
社会・環境と健康	教授	ハマオカ ナホロ 濱岡 直裕	月～木	②	b	hamaoka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5308
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	教授	チバ ヒシ 千葉 仁志	月～金	②	b	chiba-h@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5302
	准教授	キンタカ ヨリ 金高 有里	月～金	②	b	kintaka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5307
	講師	ツクイ タカキ 津久井 隆行	月～金	②	b	tsukui@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5103
食べ物と健康	教授	イタガキ ヤスハル 板垣 康治	月～金	②	b	itagaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5301
	教授	サカモト メグミ 坂本 恵	月～金	②	b	sakamoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5105
基礎栄養学	准教授	マツカワ ナリコ 松川 典子	月～金	②	a	matsukawa@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5310
応用栄養学	講師	イワベ マイコ 岩部 万衣子	月～金	②	a	iwabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5102
栄養教育論	教授	モモセ 百々瀬 いづみ	月～金	②	a	momose@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5311
臨床栄養学	教授	オカモト トモコ 岡本 智子	月～金	②	b	okamoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5306
	講師	ウジケ シノ 氏家 志乃	月～金	②	a	ujike@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5305
公衆栄養学	准教授	ツチモト コウジ 槌本 浩司	月～金	②	b	tsutimoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5106
給食経営管理論	教授	ヤマベ シュウコ 山部 秀子	月～金	②	a	yamabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5107
	講師	ワタナベ 渡辺 いつみ	月～金	②	a	watanabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5104
教職課程	教授	アンネ ヤスマサ 安念 保昌	月～金	②	b	dpforest@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5304
	教授	カト タカシ 加藤 隆	月～金	②	a	katotaka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5312
	助教	アビコ ヒロミ 安彦 裕実	月～金	②	a	abiko@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助教	ムラオ サト 村尾 咲音	月～金	②	a	murao@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助教	ヨネタ ミチ 米田 実央	月～金	②	a	yoneta@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助手	ヒダ マユミ 樋田 真弓	月～金	②	a	hida@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助手	オサベ タイコ 長部 泰子	月～金	②	a	osabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101

Ⅲ シラバス

2020年度以前入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
英語Ⅳ(総合)	演習	4	後		1	松尾 文子	37
国際社会論	講義	4	後		1	翁 康健	39
文学と人間	講義	4	後		1	畠山 瑞樹	41
保健医療福祉行政論Ⅱ	講義	4	前		2	武澤 千尋、安藤 陽子、小川 克子、川口 桂嗣、近藤 明代	43
食品機能学	講義	4	前		2	松川 典子	45
管理栄養士総合演習	演習	4	通	1		坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、○岡本 智子、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いづみ	47
臨床栄養学Ⅳ	講義	4	前	2		○岡本 智子	49
臨床栄養学実習Ⅲ	実習	4	前	1		○岡本 智子	51
地域栄養活動演習	演習	4	前		1	○榎本 浩司	53
国際栄養学	講義	4	後		1	○山部 秀子、岡部 哲子	55
総合演習Ⅱ	演習	4	前	1		○百々瀬 いづみ、板垣 康治、○岡本 智子、坂本 恵、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いづみ	56
卒業研究	演習	4	通		2	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、○岡本 智子、加藤 隆、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いづみ	57
給食経営管理論実習Ⅲ	実習	4	通		1※	○山部 秀子、○百々瀬 いづみ、○渡辺 いづみ	59
公衆栄養学実習Ⅱ	実習	4	通		1※	○榎本 浩司	60
臨床栄養学実習Ⅳ	実習	4	通	2		○岡本 智子、○氏家 志乃	61
臨床栄養学実習Ⅴ	実習	4	通		2	○岡本 智子、○氏家 志乃	62

※ 選択必修：どちらかの科目を必ず履修すること。他の選択科目で代替えは出来ません。

栄養教諭一種免許取得に必要な教職科目

2020年度以前入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
栄養教育実習事前・事後指導	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	63
栄養教育実習	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	65
教職実践演習	演習	4	後		2	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	66

(注) 1. 科目の責任者は科目担当者の先頭記載者

2. ○印は学科所属の専任教員で医師、管理栄養士、栄養士、臨床検査技師を経験している実務経験者

授業科目	英語Ⅳ（総合） English IV		担当教員	松尾 文子
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	1. 英語の4技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。			
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。			
関連科目	英語 I, II, III			
テキスト	Alive and Active. Asama M., Lambert N. and Iwao Y. (NAN'UN-DO, 2022)			
参考書				
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	学んだことの理解度を測る定期試験 70%。Unit ごとの Warm-up Exercise の小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価対象としない。	
	試験	70		
	レポート			
	小テスト	20		
	提出物			
	その他	10		
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。テキストの Inspiration Exercise に関する情報を Teams にアップするので、積極的に利用する。			
課題に対するフィードバックの方法	小テストの答え合わせを授業中に行い、さらに音声と音声のスクリプト、解答、およびテキストの Inspiration Exercise の解答例を Teams にアップする。			
実務経験を 活かした教育内容				
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	栄養とフィットネス	Introduction / Unit 1: Nutrition and Fitness		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
2	フィットネスクラブの 実態	Unit 2: 24/7 Fitness Clubs		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
3	運動と脳年齢	Unit 3: Exercise and Brain Function		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
4	運動療法	Unit 4: Exercise Therapy		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
5	高齢化を支える新たな テクノロジー	Unit 5: To Age or Not to Age		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
6	電動自転車人気	Unit 6: Riding into the Future		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
7	健康スポーツと技術応 用	Unit 7: 3D Printing for Healthcare and Sport		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
8	これまでのテキストの 理解度確認	中間試験		試験勉強・次回の授業の予習(4時間)
9	スポーツの進化系	Unit 8: Adaptive Sports		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
10	不測の事態に備える応 急手当	Unit 9: First Response		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
11	ワクチン接種をめぐる 賛否両論	Unit 10: Vaccination—Crucial or Dangerous		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
12	メディカルツーリズム の是非	Unit 11: Medical Tourism		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
13	スポーツにおける薬物 使用の鋼材	Unit 12: Athletic Performance Enhancement		テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14	進化するスポーツシューズ	Unit 13: Athletic Footwear Design	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)
15	アドベンチャーの新たな流儀	Unit 14: Adventure is for Fashion	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)

授業科目	国際社会学 International Sociology		担当教員	翁 康健
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・4 年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1 単位
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバリゼーションの進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。			
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。			
関連科目	「現代社会学」の知識が基盤である。			
テキスト	特に指定しない。時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。			
参考書	1.石井香世子編「国際社会学入門」（ナカニシヤ出版） 2.西原和久・樽本英樹編「現代人の国際社会学・入門—トランスナショナリズムという視点」（有斐閣コンパクト） 3.宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編「国際社会学」（有斐閣）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点	
	試験			
	レポート	50		
	小テスト			
	提出物	50		
	その他			
履修上の留意事項	・ 講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・ 講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。			
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭（あるいは末尾）で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。			
実務経験を活かした教育内容				
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	オリエンテーション・グローバル化	・ グローバリゼーション ・ トランスナショナリズム		・事前学習：シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること（2 時間） ・事後学習：関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること（2 時間）
2	国境を越える人——移民と無国籍者の問題	・「移民」とはだれか ・ 国籍と市民権 ・ グローバル化と無国籍者， 身分証明		・ 事前学習：第 2 回講義資料「国境を越える人——移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
3	グローバル化時代の難民・国内避難民	・「難民」とはだれか ・ グローバル化時代の難民 ・ 難民の越境化をめぐる議論 ・ 日本における難民問題		・ 事前学習：第 3 回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：難民・国内避難民のこについて、講義から理解したことをまとめること（2 時間）
4	グローバル化がすすむ日常生活	・ 越境する家族 ・ トランスナショナル教育 ・ 医療におけるグローバル化の進展		・ 事前学習：第 4 回講義資料「グローバル化がすすむ日常生活」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：越境する家族生活、教育、医療の問題をまとめること（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	グローバル時代の観光・民族・宗教の問題	・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者 ・グローバル化時代の宗教とアイデンティティ	・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル時代の観光・民族・宗教の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル社会における観光・民族・宗教の関係を整理すること（2 時間）
6	社会問題からみるローカルとグローバルの関係	・犯罪のグローバル化 ・ローカル資源とグローバル市場の間 ・紛争のグローバル化	・事前学習：第 6 回講義資料「社会問題からみるローカルとグローバルの関係」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：ローカルとグローバルの関係を説明してみる（2 時間）
7	国際格差と貧困問題	・貧困のグローバル化 ・ボーダーレス化する市場	・事前学習：第 7 回講義資料「国際格差と貧困問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：貧困のグローバル化とグローバル市場の格差について、まとめること（2 時間）
8	全体のまとめ・補足	・全体のまとめ ・期末レポートの案内	・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること（2 時間）

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity		担当教員	畠山 瑞樹
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。 この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象とし、多くの作品の読解を通じて、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。			
到達目標	1.日本の文学や文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。 2.文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。			
関連科目	高等学校の国語便覧等を利用し、古典文学の基礎を復習しておくことで、講義内容をより深く理解できる。			
テキスト	なし（プリント配布）			
参考書	講義時適宜紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 レポート 60%+小レポート 40%。小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化のため、随時実施する。レポートは、すべての講義終了後かつ定期試験期間前に、提出期限を定める（最終講義日から1週間後を予定）。 評価の観点は到達目標に示した2点。講義内容を理解し、日本の文学や文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、またそれらを基に、自らの考察を深めそれを表現できているかを評価する。	
	試験			
	レポート	60		
	小テスト			
	提出物	40		
	その他			
履修上の 留意事項	1.古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。 2.進捗により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。			
課題に対するフィードバックの方法	1.講義時に実施する小レポートは添削後返却を行い、各自が到達・改善のポイントを具体的に把握できるようにする。 2.前回実施した小レポートの内容について、次回講義時に総括を行い、到達目標への各自の達成度を確認できるようにする。			
実務経験を 活かした教育内容				
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	ガイダンス 古典文学と現代	ガイダンス 現代における古典文学について考える（『落窪物語』） 中古の文学作品を読む		事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
2	古典文学と昔話	視覚・聴覚について考える（「かぐや姫」） 上代・中古・中世の文学作品を読む		事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
3	古典文学のはじまり	身体観について考える（『古事記』） 上代の文学作品を読む		事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
4	古典文学の虚実	病について考える（『大鏡』『平家物語』） 中古・中世の文学作品を読む		事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
5	古典文学の変遷①	享受について考える（「浦島太郎」）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む		事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
6	古典文学の変遷② 古典文学と文化①	享受について考える（「浦島太郎」）② 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む		事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	古典文学と文化② 古典文学と伝説①	日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）② 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）① 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
8	古典文学と伝説②	日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）② 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

授業科目	保健医療福祉行政論Ⅱ Health & Welfare Administration Ⅱ		担当教員	武澤 千尋、安藤 陽子、小川 克子、 川口 桂嗣、近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	・保健医療福祉行政の仕組みと行政施策における財政について学ぶ。 ・主要な地域保健活動の実際と地域保健活動の進め方について学ぶ。 ・保健医療福祉計画の考え方と策定の基本について学ぶ。 ・保健医療福祉行政における保健師の役割、栄養士の役割を学ぶ。 ・地域保健医療福祉計画策定について学ぶとともに、地域の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスの仕組みについて学ぶ。			
到達目標	・地域保健活動の基盤である行政・関係法規・財政の仕組みと機能について理解する。 ・主要な地域保健活動の実際を知ることによって、地域保健活動の具体的な進め方を理解する。 ・保健医療福祉行政と地域保健医療福祉計画の策定における保健師や栄養士の役割について理解する。			
関連科目	「保健医療福祉行政論Ⅰ」			
テキスト	・藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) ・厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2022/2023」(厚生労働統計協会) ・医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる 2022-2023」(メディックメディア)			
参考書	・「衛生行政大要」(日本公衆衛生協会) ・野村陽子編集「最新 保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) ※その他、必要に応じプリント配付			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験	100	保健医療福祉行政の仕組み、財政、主要な地域保健活動とそれらの計画策定の基本に関する内容の定期試験(筆記試験)を実施し、目標の達成度を評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	保健医療福祉行政の仕組みや関係法規等の概要については、3年次に履修済み、本科目ではさらに深く学習するので、事前学習として、「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習を行い、授業に臨むこと。			
課題に対するフィードバックの方法	最終授業においてポイントを押さえながら全体をフィードバックする。			
実務経験を 活かした教育内容	行政における保健師として活動をしてきた実務経験者の立場から、実際の活動例を紹介しながら、理解しやすい様に講義を行います。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (武澤)	保健医療福祉行政の概要	1.厚生行政と保健医療福祉行政 2.保健医療福祉行政の仕組み 3.地方自治と地方分権 4.個人情報と個人情報保護		事前:1と2については「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努め、さらに3と4については該当箇所を読み疑問を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
2 (武澤)	保健医療福祉行政の財政	1.国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能 ・国家財政 ・地方財政 2.予算の機能と原則 ・財政民主主義 ・国の予算の手続き ・地方公共団体の予算の手続き		事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
3 (武澤)	健康の概念と公衆衛生の概念	1.健康の概念 ・健康の概念の変遷 ・現在の健康観 2.WHO(世界保健機関)の健康に対する考え方 ・WHOの健康に対する考え方 ・WHO憲章と日本国憲法 3.公衆衛生の概念		事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(1時間)。
4 (武澤)	世界と日本の公衆衛生活動の歴史	1.世界の公衆衛生活動の歴史 2.日本の公衆衛生活動の歴史		事後:公衆衛生活動の歴史的発展における欧米諸国と日本の相違点を整理し、理解する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (川口)	地域における主要な保健活動①	1.地方分権と地域保健法 ・地域保健法の制定 ・地域保健法の体系 ・地域保健対策の推進に関する基本的な指針 2.国民健康づくり対策 ・第一・第二・第三(健康日本 21)・第四次(健康日本 21(第2次))対策	事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学んだ内容を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとにして学修内容を復習する(2時間)。
6 (近藤)	地域における主要な保健活動②	3.母子保健対策	事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。
7 (川口)	地域における主要な保健活動③	4.成人・高齢者保健対策	事後:成人・高齢者保健対策の変遷とともに、保健対策の関係法規についても整理する(2時間)。
8 (安藤)	地域における主要な保健活動④	5.障害者(児)保健対策	事後:精神保健対策、難病対策の変遷と、実際の活動を関係法規と関連づけて復習する(2時間)。
9 (安藤)	地域における主要な保健活動⑤	6.感染症対策	事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学修した「感染症対策のポイント」を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
10 (安藤)	地域における主要な保健活動⑥	7.結核対策	事前:結核対策の歴史的変遷と結核の現状と対策の実際について整理しておく。予防接種についても「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習をする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
11 (小川)	地域における保健活動①	市町村における主要な保健活動	事後:地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする(2時間)。
12 (小川)	地域における保健活動②	保健所における主要な保健活動	事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。
13 (小川)	地域保健医療福祉計画①	1.地方自治体の保健医療福祉計画 ・地方自治体と計画行政 ・地方自治体の保健医療福祉に関する分野別計画	事後:地方自治体の行政計画と保健医療福祉計画との関係や課題の理解に努める(2時間)。
14 (小川)	地域保健医療福祉計画②	・地方自治体の計画策定	事後:地域保健医療福祉計画の策定、推進・管理・評価の進め方について復習して理解するとともに、厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」(平成25年4月25日健発0419第1号)を読み、計画策定と実施等における保健師の役割について整理する(2時間)。
15 (近藤)	地域保健活動の展開	・地域保健活動の進め方	事後:地域保健活動の基本と保健師・栄養士の役割について各自のノートに整理する(2時間)。

授業科目	食品機能学 Food Functional Science			担当教員	松川 典子
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2単位
授業目的	近年、食品は 3つの機能性から評価され、とくに生理機能については、健康維持・増進、疾病の予防・症状の改善を目的とした食品成分の活用、あるいは食品開発などの側面から注目されている。本講義では、生理機能に関与する食品成分について、その効果、作用機序を教授し、管理栄養士に求められる食品の生理機能に関する知識の修得、その種の情報を適切に判断するための能力を最新エビデンスに基づき身につける。				
到達目標	1. 機能性食品に対する行政上の位置づけ、法的規制、表示等を説明できる。 2. 生理機能を発揮する食品成分の種類、作用のメカニズムを説明できる。 3. 新たな開発が進む様々な機能性食品を科学的に説明できる。				
関連科目	食品科学Ⅰ、基礎栄養学				
テキスト	青柳康夫「食品機能学」（建帛社）				
参考書					
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点		
	試験	80	授業内で前回の内容に関する小テスト（20％）を実施し、全体の授業内容に関連する定期試験（80％）を実施することで学習到達度を評価する。		
	レポート				
	小テスト	20			
	提出物				
	その他				
履修上の 留意事項	関連科目（食品科学Ⅰ、基礎栄養学）の内容を復習した上で授業に臨むこと。各授業の前後に1～2時間の復習を要する。				
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説する。				
実務経験を 活かした教育内容					
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習
1	食品機能学	食品機能学の講義概論、ガイダンス			事前：シラバスを確認する。教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）
2	栄養表示基準、機能性食品	食品表示法、保健機能食品の制度、対象食品について			事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）
3	抗酸化性機能成分	活性酸素、抗酸化メカニズム、抗酸化を有する食品について			事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）
4	難消化性・微生物活性機能 1	食物繊維の働き、消化吸収促進と代謝改善機能について			事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）
5	難消化性・微生物活性機能 2	難消化、吸収阻害および微生物活性機能食品の三次機能について			事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）
6	脂質代謝関連機能 1	中鎖脂肪酸・植物ステロールの機能について			事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	脂質代謝関連機能 2	n-3 系脂肪酸、n-6 系脂肪酸、コレステロールの機能について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
8	酵素阻害、酵素活性化機能	血圧上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
9	消化関連酵素阻害と糖尿病	血糖値上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
10	免疫系に及ぼす機能 1	免疫機能を活性化する成分について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
11	免疫系に及ぼす機能 2	食物アレルギーについて	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
12	神経系に及ぼす機能	神経系に影響を及ぼす食品成分について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
13	時間栄養学	時間栄養学とは、からだのリズムと栄養について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
14	抗加齢医学	抗加齢医学とは、抗加齢成分・食品について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
15	まとめ	講義のまとめ、試験	事前:これまでの授業内夜を復習する。(1 時間) 事後:試験問題を復習する。(1 時間)

授業科目	管理栄養士総合演習 Practical Seminar of Registered Dietetics		担当教員	坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、岡本 智子、千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いづみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	専門教育科目の学修を通し、4年間で修得してきた管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目の関連性を理解したうえで、食と健康に関する問題点や疑問点を明確にし、修得した各科目を横断的かつ総合的に判断し、問題解決する能力を身につける。また、4年間の成果の総仕上げと位置づけ、修得した知識と技術を統合し、管理栄養士として社会で活躍できる実践力を再確認し、補足する。			
到達目標	1. 専門基礎科目・専門科目における学修目標を習得している。 2. 各科目を横断して、問題解決できる総合的な能力を身につけている。 3. 卒業後の置かれた立場で、管理栄養士として、職務を実践できる基礎的な知識と技術を身につけている。 4. 管理栄養士国家試験合格のための総合力を修得する。			
関連科目	担当教員が担当している管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目			
テキスト	資料を配布する			
参考書	クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 到達状況を小テストおよび取り組み姿勢により総合的に評価する。 模擬試験、補講等を実施するので必ず出席すること。 その他：取り組み姿勢	
	試験			
	レポート			
	小テスト	70		
	提出物			
	その他	30		
履修上の留意事項	管理栄養士の国家試験の対策として重要な科目である。必ず出席し努力を継続して実力アップをはかること。模擬試験などの成績は変動するが、努力を継続することが国家試験合格の道となる。補講等は必ず受講する事が基本事項である。臨地実習や就活などで欠席する場合は必ずその旨を教員に事前に連絡すること。進捗状況等により補講内容等の順序が変更になることがある。各授業後に理解度を確認するために行われる小テストは必ず受けること。基準点に達しない場合は補講、課題、再テストなどを行う。			
課題に対するフィードバックの方法	小テスト終了後、解答を渡すので自己採点する。間違ったところは配布プリントなどで復習するよう促す。わからない箇所がある場合は個別に対応する。			
実務経験を活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (坂本)	ガイダンス 専門基礎科目の知識の確認	管理栄養士総合演習について 管理栄養士に必要な基礎的な知識について 専門基礎科目の補講（食べ物と健康）		管理栄養士国家試験について予習する。授業内容を復習する。勉強計画を立てる（2時間）。
2 (松川)	専門科目の知識の確認	専門科目の知識の確認と補講（基礎栄養学）		基礎栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
3 (千葉）	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）		人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
4 (金高)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）		人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
5 (津久井)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）		人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
6 (荒川)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）		食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (濱岡)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
8 (板垣)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（社会環境と健康）	社会環境と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
9 (岩部)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（応用栄養学）	応用栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
10 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
11 (百々瀬)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（栄養教育論）	栄養教育論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
12 (山部・渡辺)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（給食経営管理論）	給食経営管理論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
13 (槌本)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（公衆栄養学）	公衆栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
14 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学（応用問題）を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
15 (坂本)	全科目の確認	全科目の総まとめ	国家試験過去問題を確認し覚える（2時間）。

授業科目	臨床栄養学Ⅳ Clinical Nutrition Ⅳ		担当教員	岡本 智子
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	内分泌疾患、電解質異常、がん、手術、周術期患者の管理、クリティカルケア、摂食機能の障害、身体・知的障害、乳幼児・小児疾患、妊産婦・授乳婦の疾患、老年症候群等の疾患等について病態別栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、実施、評価、フィードバック）の方法を修得する。栄養管理計画作成に必要な情報収集と理由、情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画の作成とその根拠、モニタリング、評価・計画の作成について学修する。さらに、チーム医療における管理栄養士の役割（実践症例の栄養評価及び栄養計画の作成・マネジメント）、他専門職との連携等について具体的に理解を深める。			
到達目標	1. 臨床栄養学Ⅱ、Ⅲにあげた到達目標を達成したうえで、さらに今回学修した疾患について知識を積み上げて修得している。 2. がんの化学療法と栄養管理の問題点、解決法等を考えることができる。 3. 高齢者の栄養管理における問題点と解決法等を考えることができる 4. 妊娠期・周産期の栄養管理と問題点、解決等を考えることができる。 5. クリティカルケアにおける栄養管理について説明できる。 6. 食物アレルギーを理解し、具体的な食事の管理について説明できる			
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			
テキスト	上原誉志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館			
参考書				
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 課題レポート 50% その他：小テスト 30%、授業態度 20% で評価する	
	試験			
	レポート	50		
	小テスト	30		
	提出物			
	その他	20		
履修上の 留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。			
課題に対するフィードバックの方法	レポートにはコメントを付して返却する。小テストにはその場で解答と説明を行う。			
実務経験を 活かした教育内容	高度な栄養管理が必要な疾患を臨床の現場をイメージさせながら、症例をもとに講義を進め、また具体的な栄養ケアが実践できるように課題を出しながら、技術やスキルを身につけていくように授業を進めていく			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	疾患・病態別栄養管理 (1)	臨床栄養学Ⅲの振り返り、この授業の目的、授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出について		シラバス、教科書を確認して授業の準備をする（2時間）。授業の内容をまとめ、復習する（2時間）
2	疾患・病態別栄養管理 (2)	内分泌疾患（甲状腺・副甲状腺・副腎）		事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
3	疾患・病態別栄養管理 (3)	Ⅰ型糖尿病、小児糖尿病		事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
4	疾患・病態別栄養管理 (4)	小児の疾患における栄養管理 先天性代謝異常		事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
5	疾患・病態別栄養管理 (5)	妊産婦の疾患：妊娠高血圧、妊娠糖尿病		事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	疾患・病態別栄養管理 (6)	症候・症状の原因、鑑別法と栄養障害の評価（フィジカル アセスメント）	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2 時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2 時間）
7	疾患・病態別栄養管理 (7)	肝臓・膵臓疾患 代償期・非代償期の栄養管理	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2 時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2 時間）
8	疾患・病態別栄養管理 (8)	がんの栄養管理：化学療法、放射線療法、悪液質	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2 時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2 時間）
9	疾患・病態別栄養管理 (9)	がんの栄養管理とチーム医療（緩和ケアチーム）	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2 時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2 時間）
10	疾患・病態別栄養管理 (10)	精神疾患患者の栄養管理 認知症（GS 谷文乃氏）	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2 時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2 時 間）
11	疾患・病態別栄養管理 (11)	高齢者の栄養管理とチーム医療	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2 時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2 時 間）
12	疾患・病態別栄養管理 (12)	周術期における栄養管理 電解質異常、アシドーシス・ア ルカローシス	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2 時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2 時 間）
13	疾患・病態別栄養管理 (13)	クリティカルケア：ICU・CCU における栄養管理とチーム 医療	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2 時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2 時 間）
14	疾患・病態別栄養管理 (14)	摂食機能障害、身体・知的障害 口蓋裂・顎裂	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2 時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2 時 間）
15	疾患・病態別栄養管理 (15)	食物アレルギー まとめ	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2 時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2 時 間）

授業科目	臨床栄養学実習Ⅲ Clinical Nutrition Practicum III		担当教員	岡本 智子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	実習		単位数	1単位
授業目的	提示された合併症を伴う複雑な困難症例について、栄養ケア計画の作成に必要な情報を整理し、栄養アセスメントを行う。栄養アセスメントの総合評価として、徴候・症状等の基礎データを整理しプロブレムリストを作成する。それらをふまえて栄養ケア計画を作成するとともに、モニタリング、評価・計画の作成、チーム医療における栄養管理の展開と手順について実習を通して理解する。提示された症例についての栄養ケア計画から評価、チーム医療における展開について、プレゼンテーションを行う。発表後はグループディスカッションによって、臨床現場における実践力、応用力を養う。			
到達目標	1. 栄養ケアプロセスが理解できる基本的な疾患症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成することができる。 2. 基本的な疾患症例や合併症を伴う疾患、また病態の変化にあわせた栄養障害疾患症例を対象にについて栄養アセスメント・栄養診断、栄養ケア計画作成し、モニタリング・評価が実施できる。 3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画作成と栄養・食事療法を実践すべき献立の評価を行なうことができる。 4. 提示症例の栄養評価、ケア計画をチーム医療の場で根拠に基づいて説明することができる。 5. 提示症例について、口頭及びポスターなどで症例報告のプレゼンテーションができる。			
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ			
テキスト	なし			
参考書	上原誓志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館 臨床栄養学 栄養ケアプロセス演習－傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方ー			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の到達状況を下記の方法で評価する。 課題レポート・提出物 50% その他：グループ活動と発表 50%で評価する。	
	試験			
	レポート	25		
	小テスト			
	提出物	25		
	その他	50		
履修上の留意事項	示された症例については自ら考え、さらにグループ内で検討し栄養ケアプランを立案し実践してほしい			
課題に対するフィードバックの方法	症例をまとめ発表するところでコメントを付す			
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	ガイダンス 授業の目的	職業倫理 守秘義務 栄養ケア・マネジメントについて		シラバス、テキストを確認して授業の準備をする (2 時間)。授業の内容をまとめ、復習する (2 時間)
2	栄養ケアプロセス (栄養アセスメント、栄養診断、評価、モニタリング)	病棟に行く準備 栄養評価 患者への説明など 栄養ケアプロセスに則っての流れを知る		事前：配布資料により予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
3	糖尿病と栄養管理 (1)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理①栄養アセスメントと栄養診断について		事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
4	糖尿病と栄養管理 (2)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理②栄養管理計画書作成		事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	糖尿病と栄養管理 (3)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理③他グループとのディスカッション 患者への説明	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
6	消化器術後の栄養管理 (1)	胃がん切除後における栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
7	消化器術後の栄養管理 (2)	胃がん切除における栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
8	消化器術後の栄養管理 (3)	胃がん切除における栄養管理 ②入院から外来へのフォローアップについて	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
9	肝疾患の栄養管理 (1)	NASH の栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
10	肝疾患の栄養管理 (2)	NASH の栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
11	肝疾患の栄養管理 (3)	肝硬変の栄養管理③栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
12	肝疾患の栄養管理 (4)	肝硬変の栄養管理(蛋白不耐症)④栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
13	栄養投与方法	経静脈・経腸栄養剤のプランニング方法	前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
14	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
15	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)

授業科目	地域栄養活動演習 Community Nutritional Program Practicum	担当教員	槌本 浩司
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	地域栄養活動の基本は、地域に住む全ての人々の健康・生活の質向上という目的をもって、地域の活動体を組織し、健康の保持・増進に他職種と連携して取り組むことである。地域栄養活動における各種サービスやプログラムの調整、社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理の仕組みについて、実際の事例をもとに学修する。また、札幌市等の公表データをもとに、アセスメント、課題抽出、目標設定、媒体作成、模擬活動等を通して実践力を身につける。		
到達目標	1. 健康増進プログラムの対象・目的を理解している。 2. 集団の食事評価についての方法を説明できる。 3. 地域、職場等における食生活改善プログラムを作成できる。 4. 統計的なデータをもとに、集団を評価することができる。 5. プレゼンテーション力を身につけている。		
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、栄養教育論、応用栄養学		
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウェルネス公衆栄養学」（医歯薬出版） 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。		
参考書	※その他、開講時に掲示する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況をレポート、提出物、その他で評価する。 その他：課題、活動に取り組む姿勢 20% 活動報告発表（内容含む）20%
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	30%	
	その他	40%	
履修上の 留意事項	実践的な学修であり学外の方々に接する機会等がある、社会人としての基本的姿勢、礼儀をもって対応することとは勿論、十分に事前学修、知識の整理をしておくことが必要である。活動報告等に要する授業時間の割り振りは履修者数により変動することがある。		
課題に対するフィードバックの方法	演習時個々に課題の進捗状況に合わせコメントを実施するとともに、課題発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康栄養マネジメント全般の内容を演習に織り交ぜながら、地域栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンスと自治体における栄養活動 1_1)	活動の実践と展開の方法について	事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
2	自治体における栄養活動 1_2)	健康づくり関係法規について要約し解説できる。 行政栄養士の業務の違い（通知文書、実務の解釈） 都道府県・政令市等・市町村の役割分担の違い ・地域保健法に基づく役割分担が説明できる。	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
3	政令指定市における健康・栄養活動 1_1)	札幌市（各区・北海道・全国）の統計情報を要約できる。 （主要死因・医療費・生活習慣病） 健康札幌 21 と健康日本 21（国）の比較 北海道、札幌市の健康増進計画について	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
4	政令指定市における健康・栄養活動 1_2)	札幌市（各区・北海道・全国）の統計情報を要約できる。 主要死因、SMRの推移と現状について 札幌市の健康増進計画とその現状値について	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
5	健康づくり事業実施案作成準備 1-1)	健康づくり講話資料作成Ⅰ-1 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅰ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅰ-2 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	健康づくり事業実施案 発表Ⅰ-3)	健康づくり講話資料の作成Ⅰ-3 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-1 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-2 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-3 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-1 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-2 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-3 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-1	健康づくり講話の発表Ⅰ-1 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-2	健康づくり講話の発表Ⅰ-2 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	国際栄養学 International Nutrition and Dietetics		担当教員	山部 秀子、岡部 哲子
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	国際的な視点から健康、栄養、食生活、食糧問題について捉えることを目的とする。 各国の食事バランスガイド等について学修し、その国における栄養活動の状況を把握し、課題について学修する。また、我が国が行っている海外での栄養対策への支援や現在の地球環境と健康・栄養問題等の関連や解決すべき課題、諸問題への国際的な取り組み等についても学修する。			
到達目標	1. 栄養課題に対する国際社会の動きを理解する。 2. 我が国の諸外国に向けた栄養支援について理解する。			
関連科目	公衆栄養学、公衆衛生学			
テキスト	授業ごとに資料を配布			
参考書				
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験			
	レポート	80		
	小テスト			
	提出物			
	その他	20		
履修上の 留意事項	ディスカッションなど自分の考えを表現する機会では積極的な参加をしてください。			
課題に対するフィードバックの方法	課題に関する解説を毎回実施する 事前事後学習として1時間程度の学修をおこなう。			
実務経験を 活かした教育内容				
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (山部)	国際社会の食について	地域や宗教による食の違いの理解		公衆栄養学で学んだことを整理しておくこと。
2 (山部)	各国における食物ベースの食生活指針	現在の各国の食事ガイドや食料自給率についての理解		授業内容について復習し、疑問点をまとめる
3 (山部)	青年海外協力隊について①	青年海外協力隊での経験（特別講師：大山）		青年海外協力隊についてインターネット等で調べ、質問を用意する。
4 (山部)	青年海外協力隊について②	青年海外協力隊の在り方		青年海外協力隊についてインターネット等で調べ、質問を用意する。
5 (岡部)	各国の栄養改善対策の実際①	JICAにおける協力隊の活動紹介①		授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
6 (岡部)	各国の栄養改善対策の実際②	JICAにおける協力隊の活動紹介②		授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
7 (山部)	国際栄養分野における管理栄養士の役割	国際栄養分野における管理栄養士等の人材の役割について考える		授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
8 (山部)	食・栄養に関する国際機関の役割	食・栄養に関する国際機関を理解する		視野を広く持ち、世界に目を向けられるようにしましょう

授業科目	総合演習Ⅱ Practical Seminar of NutritionⅡ		担当教員	百々瀬 いづみ、板垣 康治、岡本 智子、坂本 恵、 千葉 仁志、濱岡 直裕、山部 秀子、金高 有里、 槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、氏家 志乃、 津久井 隆行、渡辺 いづみ
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	各専門分野を横断して、専門分野のこれまでの学びで修得した基礎知識や技術に加え、臨地実習を通して実践的に修得した知識・技術、管理栄養士としての役割の理解をふまえて、グループワークで課題に取り組み、知識・技術を統合し、応用・活用して課題解決を図るとともに、この過程を通してコミュニケーション能力、お互いの知識・技術の交換や役割分担等、基礎的能力に加えてさらに各自が管理栄養士としての能力を高めることを目的とする。複数の教員の指導により各専門分野の知識を統合して演習形式で学修を進める。			
到達目標	管理栄養士として活動できる基礎的な能力に加えて、活用・応用できる能力が身についている。			
関連科目	1～3年次に履修した各分野の既修科目が全て関連する。			
テキスト	特になし(資料を配付する)			
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の達成状況を下記の視点から評価する。 ・提出物：分野ごとに課題に沿った資料作成を課す。 (レポート・プレゼンテーション資料等) ・その他：授業時の発表、取り組み姿勢を評価する。	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	50		
	その他	50		
履修上の 留意事項	1.各分野の苦手、理解不足などを解消するために、事前に自習して、積極的にとりくむこと。 2. 目標を共有し、メンバーが役割を分担しチームワークで成果を出すように考えること。			
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関して授業内で解説したり、コメントを付したりして返却する。			
実務経験を 活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (百々瀬) (坂本) (松川)	ガイダンス、 フードサイエンスⅠ	総合演習Ⅱの概要 食品機能と調理		事後学習に 1 時間ほど要する
2 (津久井) (金高)	フードサイエンスⅡ	食品機能開発 健康増進・疾病予防と食品の機能		事後学習に各 1 時間ほど要する
3 (板垣)	フードサイエンスⅢ	食品機能とアレルギー		事後学習に 1 時間ほど要する
4・5 (槌本) (濱岡)	栄養疫学	データの収集、管理、応用について EBM にもとづいた評価、治療について、具体的なデータの扱い方		事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
6～9 (岡本) (氏家)	臨床栄養学	臨床現場における疾患別・病態別の栄養管理		事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
10～12 (百々瀬) (坂本) (槌本) (渡辺)	地域社会における 栄養活動	地域社会における根拠にもとづいた評価、栄養活動		事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
13～15 (百々瀬) (千葉) (氏家) (岩部)	栄養教育	ライフステージ(大学生)と栄養教育 根拠に基づいた栄養教育の実施		事前・事後学習に各 1 時間ほど要する

授業科目	卒業研究 Graduation Study		担当教員	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、岡本 智子、加藤 隆、千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いづみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	2単位
授業目的	管理栄養士としての専門分野において修得した知識等を総合的に活用し、研究課題を設定、研究計画作成、資料の収集、実験や資料の分析、報告書の作成、ディスカッションなどを繰り返しながら、最終的な成果を発表するとともに論文を作成する。社会で求められる専門職業人としての研究能力を修得する。			
到達目標	1. 研究テーマについて専門的に追求し、研究成果を口頭で発表するとともに論文にまとめる。 2. 卒業研究を通して、発想力、分析力、問題解決能力を身につける。 3. 実験・調査・ゼミ活動、発表を通してコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 4. 事象について、多くの人に理解されるような客観的な見解をまとめ、記述ができる力を身につける。			
関連科目	担当教員の専門分野（担当科目）と関連する			
テキスト	資料を配布する。各自のテーマが決定してから、ゼミ等を通して参考書等を検索する。			
参考書				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	10		
	その他	90		
		提出物：研究テーマに関するレポートと調査計画書 10％ その他：研究に対する取組姿勢 40％、口頭発表 10％、研究論文内容 40％		
履修上の留意事項	卒業研究は各自がテーマを決定し、予備研究、本研究等を通して科学研究の方法を学びながら、研究論文完成へつなげてゆく。ゼミ発表、実験、調査、研究発表、論文作成について各自が積極的にとりくむ必要性から、研究内容によって個別対応になることがある。各自、授業外学習時間は必須である。進捗状況により内容が前後することがある。			
課題に対するフィードバックの方法	担当教員が研究テーマに関連する内容について指導し添削を行う。			
実務経験を活かした教育内容	各担当者が実務経験を活かし、適切な助言をしながら効果的に進めていく。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (坂本)	オリエンテーション	卒業研究の今後の予定と、研究テーマの検討について		事前学習として研究テーマについて調べておくこと
2 (全担当教員)	研究方法について	研究方法の検討、文献検索について		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
3 (全担当教員)	研究計画について	文献資料収集、研究計画作成について		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
4 (全担当教員)	研究計画検討①	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
5 (全担当教員)	研究計画検討②	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
6 (全担当教員)	研究計画書確定	研究テーマに沿った研究計画書を確定する		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
7 (全担当教員)	研究活動①	研究計画に基づき、テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
8 (全担当教員)	研究活動②	テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
9 (全担当教員)	研究活動③	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
10 (全担当教員)	研究活動④	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11 (全担当 教員)	研究活動⑤	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
12 (全担当 教員)	研究活動⑥	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
13 (全担当 教員)	研究活動⑦	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
14 (全担当 教員)	研究活動⑧	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）、中間報告会の準備	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
15 (全担当 教員)	研究活動⑨	卒業研究中間報告会	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
16 (全担当 教員)	研究活動⑩	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
17 (全担当 教員)	研究活動⑪	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
18 (全担当 教員)	研究活動⑫	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
19 (全担当 教員)	研究活動⑬	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
20 (全担当 教員)	研究活動⑭	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
21 (全担当 教員)	研究活動⑮	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
22 (全担当 教員)	研究活動⑯	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
23 (全担当 教員)	研究活動⑰	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
24 (全担当 教員)	研究報告会準備①	発表スライドの作成	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
25 (全担当 教員)	研究報告会準備②	発表スライドの確認とゼミ発表	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
26 (全担当 教員)	研究報告会	研究成果報告会	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
27 (全担当 教員)	卒業研究論文作成①	成果発表会等の結果をふまえて論文を作成する	成果報告会における指摘事項の再確認と論文作成に 3 時間程度要する
28 (全担当 教員)	卒業研究論文作成②	卒業研究論文の作成	作成した内容の確認、今後の予定確認と作成に 3 時間程度要する
29 (全担当 教員)	卒業研究論文作成③	卒業研究論文の作成	引き続き内容確認、作成に 3 時間程度要する
30 (全担当 教員)	卒業研究論文作成④	卒業研究論文の完成	作成した内容について読み込み、確認し提出するため 3 時間程度要する

授業科目	給食経営管理論実習Ⅲ Field Practice in Nutrition and Food Service Management Ⅲ	担当教員	山部 秀子、百々瀬 いづみ、渡辺 いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	選択必修
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	児童生徒の栄養管理を中心に給食の運営や関連の資材（設備、食材、人材、情報、資金等）を総合的に判断して、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を実践の場において養い、マーケティングの原理、給食の組織や運営管理等が実践の場でどのように活用されているのか等を実践的に学修し、学内で学んだ知識と技術の統合を図る。また児童生徒個々の特徴を考慮した上で、栄養管理のために喫食状況の把握、栄養・食事管理、食材管理、作業管理の分析、衛生管理、衛生教育、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決のための検討などについて実践の場で学修する。さらに他部署・部門、多職種との連携を図るための方法や管理栄養士の役割を学修する。		
実習目標	1. 栄養ケア・マネジメントの基礎的知識、技術について説明できる。 2. 栄養管理において重要な課題をあげ、その解決のため計画を立案できる。 3. 多職種連携における管理栄養士の役割を説明できる。		
関連科目	給食経営管理論1、給食経営管理論Ⅱ、給食経営管理論実習Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅱの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する。		
実習内容	札幌市内の小学校等における実習		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。
	レポート		提出物：20点（実習の目的、自主課題、施設課題）
	小テスト		その他：80点（配分は以下の通り）
	提出物	20	施設指導者の評価 30点 実習ノートの内容 30点
	その他	80	実習報告書の内容（実習の目的、課題の達成度について（発表を含む）20点
履修上の留意事項	臨地実習で身につけた知識や技術をさらに定着させ、より深く管理栄養士の業務を理解するために、積極的に取り組むこと。これまでに学修してきたことを復習、整理しておくこと。利用者の特徴や対応等についても十分に事前学習し、臨地実習に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習において学修する内容や準備について具体的に指導する。また臨地実習では実務を行っている施設職員や管理栄養士の実践的な指導により、管理栄養士の職務や役割等について実習を通して実践的に学ぶことができる。		
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明する。 1. オリエンテーション 給食経営管理論実習Ⅲ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設概要の把握 課題（自主課題または施設からの提示課題）の準備 2. 実習 実習施設（小学校等）における実習（45時間） 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表		
実習施設	札幌市内の小学校等の給食提供施設		

授業科目	公衆栄養学実習Ⅱ Public Health Nutrition PracticumⅡ		担当教員	槌本 浩司
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択必修
授業形態	実習		単位数	1単位
ねらい	保健所や保健センター等において、地域保健活動における各所の役割や機能、地域住民を対象とした栄養管理に関わる管理栄養士の業務を実践的に学修する。国の健康増進施策等が地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているのかを学修する。また、住民への栄養・食生活の改善に関する事業を実践の場で体験し、様々な栄養関連サービスを必要とする人々に気づき、地域診断の結果から地域の優先的な健康・栄養課題を明確にし、課題解決にむけたプログラムの作成・実施・評価などについて学修し、実践活動の場で今まで修得した知識および技術の統合を図る。			
実習目標	1. 公衆衛生行政を理解している。 2. 住民の健康増進事業を通して栄養改善業務および栄養行政の概要を把握し説明できる。 3. 地域保健活動・健康づくり対策を理解している。 4. 地域保健活動・健康づくり対策が多職種連携により行われていることを理解している。 5. 地域栄養計画の立案、活動の進め方、評価、健康増進事業、地区組織の育成を体得している。			
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学			
実習内容	保健所または保健センターにおける実習			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点	
	試験	100%	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 実習先の評価 40％、 実習記録 20％、 報告書（成果発表を含む）40％	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. 実習の準備・事後の整理は協力して行うこと。 3. 実習保健所管内および保健センターの概要を把握しておくこと。 4. 自身の実習課題を明確化し、到達目標を立て、効果的な実習となるよう臨むこと。 5. 事前学習ノートの整理、報告書の作成は速やかに行い提出すること。			
課題に対するフィードバックの方法	成果発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康増進施策など、公衆栄養活動の実践に必要な知識について理解しやすいように授業を行います。			
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明します。 1. オリエンテーション 公衆栄養学臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備 2. 実習 実習施設（保健所、保健センター）における実習（45 時間） 3. 事後指導 実習成果のまとめ（実習報告書） 実習報告会の準備 実習報告会での発表			
実習施設	北海道保健所、札幌市保健所・保健センター			

授業科目	臨床栄養学実習Ⅳ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅳ		担当教員	岡本 智子、氏家 志乃
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	必修
授業形態	実習		単位数	2単位
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種の連携を経験し、地域医療や在宅医療等についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。			
実習目標	1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。 2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。 3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。 4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。 5. 地域医療や在宅医療の概要について説明できる。			
関連科目	臨床栄養学Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ. 臨床栄養学実習Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ			
実習内容	病院施設における実習			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	50		
	その他	50		
履修上の 留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。 3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。 4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。			
課題に対するフ ィードバックの 方法	提出物にはコメントを付して返却する			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。			
実習方法	1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項 2. 実習 実習施設（医療施設）における実習 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で 90 時間)			
実習施設	札幌市内医療施設等			

授業科目	臨床栄養学実習Ⅴ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅴ		担当教員	岡本 智子、氏家 志乃
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	2単位
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種の連携を経験し、NSTで介入する合併症を伴う複雑な症例についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。			
実習目標	1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。 2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。 3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。 4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。 5. 複雑な症例について栄養評価、栄養計画の作成ができる。			
関連科目	臨床栄養学Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ.臨床栄養学実習Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ			
実習内容	病院施設における実習			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	50		
	その他	50		
履修上の 留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。 3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。 4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。			
課題に対するフ ィードバックの 方法	提出物にはコメントを付して返却する			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。			
実習方法	1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項 2. 実習 実習施設（医療施設）における実習 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で90時間)			
実習施設	札幌市内医療施設等			

授業科目	栄養教育実習事前・事後指導 Guidance for Nutrition Teaching Practicum		担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	1単位
授業目的	事前指導：栄養教諭の実習の意義や目的を理解し、実習に臨む基本姿勢の構築を図る。実習に関する報告書等の作成方法をはじめとし、実習効果を高める技術を体得させる。事後指導：実習報告書を作成し、課題ならびに成果を抽出してまとめる。実習報告会を行い、プレゼンテーションができる能力の養成を図る。			
到達目標	事前指導：栄養教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で、意欲的に栄養教育実習に参加することができる。事後指導：栄養教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能、課題等を理解している。			
関連科目	栄養教育実習			
テキスト	適宜、資料等を配布する			
参考書	適宜、提示する			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30		
	その他	70		
履修上の留意事項	充実した栄養教育実習とするための事前学習・準備を周到に行って欲しい。実習後には、振り返りを十分に行い、栄養教諭としての資質向上を目指して積極的に取り組んで欲しい。			
課題に対するフィードバックの方法	栄養教育実習に向けての事前学習・準備での振り返りや助言、実習報告書作成での自身の課題や課題解決の方向性に対する観点整理や助言を行う。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら実習の意義や目的について理解しやすいように授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (全担当教員)	栄養教育実習オリエンテーション	栄養教育実習の意義や目的、マナー、教育実習に必要な知識の確認・整理等		事前：既習の関連科目の復習をする（1時間）事後：教育実習の意義や目的について自分の言葉でノートにまとめる（1時間）
2 (全担当教員)	学校現場の実態について	学校現場の状況や実習に向けて取り組むべきことなど		事前：実習に向けて学びたい事項（質問事項）の整理する（1時間）事後：実習に向けて取り組むべきことなどを整理する（1時間）
3 (全担当教員)	栄養教育実習に向けた模擬指導（給食前指導）ガイダンス・準備Ⅰ	指導テーマの検討・指導案作成		事前：模擬指導（給食前指導）のテーマを検討する（1時間）事後：指導案作成方法の振り返りをする（1時間）
4 (全担当教員)	給食前指導の準備Ⅱ	教育教材の作成		事前：教材作成を参考図書などで準備する（1時間）事後：学んだ教育教材の作成のポイントを自分で振り返りまとめる（1時間）
5 (全担当教員)	模擬給食前指導と討論Ⅰ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認		事前：討論に向けての内容、資料の準備をする（1時間）事後：全体討論での気付き、学びをノートに整理する（1時間）
6 (全担当教員)	模擬給食前指導と討論Ⅱ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認		事前：討論に向けての内容、資料の準備をする（1時間）事後：全体討論での気付き、学びをノートに整理する（1時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (全担当教員)	討論 給食前指導の振り返り・研究授業（45 分間食指導）ガイダンス・準備Ⅰ	指導テーマの検討・指導案作成	事前：研究授業のテーマについて構想をまとめる（1 時間）事後：指導案作成方法の振り返りをする（1 時間）
8 (全担当教員)	研究授業の準備Ⅱ	教材作成準備・栄養教育の事前練習	事前：研究授業の内容、指導展開を構想する（1 時間）事後：栄養教育の事前練習を整理する（1 時間）
9 (全担当教員)	模擬研究授業（45 分間食指導）と討論Ⅰ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：研究授業の資料、確認準備などを行う（1 時間）事後：討論を通じて気付いたこと、教えられたことを自分の言葉でノートにまとめる（1 時間）
10 (全担当教員)	模擬研究授業（45 分間食指導）と討論Ⅱ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：研究授業の資料、確認準備などを行う（1 時間）事後：討論を通じて気付いたこと、教えられたことを自分の言葉でノートにまとめる（1 時間）
11 (全担当教員)	栄養教育実習の振り返り、報告（報告書・発表会）準備	教育実習の振り返り、履修カルテの記入、報告書・報告会準備	事前：栄養教育実習を振り返って整理する（1 時間）事後：報告書・報告会準備に向けて必要な資料準備をする（1 時間）
12 (全担当教員)	実習報告書作成Ⅰ	実習記録（報告書）の作成	事前：実習報告書作成に向けて資料を用意する（1 時間）事後：実習報告書作成の加除修正を行う（1 時間）
13 (全担当教員)	実習報告書作成Ⅱ	実習記録（報告書）の作成（完成）	事前：実習報告書作成の進捗を確認し、必要な資料を準備する（1 時間）事後：完成した実習報告書に目を通し、自分の課題を明確化する（1 時間）
14 (全担当教員)	実習成果報告会準備	実習成果の発表に向けてプレゼンテーション資料の作成、発表準備	事前：実習成果報告会に向けて必要な諸準備をする（1 時間）事後：実習成果報告会のポイントについて確認する（1 時間）
15 (全担当教員)	実習報告会	栄養教育実習の成果を発表する。発表を参考に、自身の課題や課題解決の方向性についてまとめる	事前：実習成果報告会に向けて最終的な準備をする（1 時間）事後：報告会を通じて自身の課題や課題解決の方向性について整理する（1 時間）

授業科目	栄養教育実習 Nutrition Teaching Practicum		担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	1単位
ねらい	栄養教諭として、児童・生徒の健やかな成長と長い生涯にわたる健康維持の基礎づくりのために、適正な食習慣ならびに自己管理ができるように、学校現場（小学校）において、実習を行う。講義や演習を通して学んだ知識や技術を基礎として、児童・生徒に対し給食を教材とした栄養教育・食育を実践する。			
実習目標	1）児童との関わりを通して、児童の実態や課題を把握することができる。 2）栄養教諭の心構えや態度を学修し、栄養教諭に求められる役割を理解する。 3）学校給食管理の実際を把握し、生きた教材としての給食と食に関する指導の一体化について理解する。			
関連科目	栄養教育実習事前・事後指導、教職実践演習、給食経営管理論実習Ⅲ			
実習内容	・学校現場において、観察・参加・実習を通じて、学校教育（学校給食経営管理を含む）の実際を学ぶ。 ・給食時や教科・特別活動において、食に関する指導（指導案の作成、研究授業の実施など）を体験する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 目標の達成状況を下記の点から評価する。 ・提出物：実習ノート・自主課題等の記録（40％） ・実習報告書（30％） ・その他：実習施設指導者の評価（30％）	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	70		
	その他	30		
履修上の留意事項	1. 本実習は、「栄養教育実習事前・事後指導」において、実習前に必要なオリエンテーションや事前準備等を行い、実習後に成果発表等を行う。 2. 教職関連科目で学修したことが基礎となるため、事前にしっかり振り返りをしておくこと。			
課題に対するフィードバックの方法	実習成果報告会のポイントについて確認することや、実習報告書作成での自身の課題や課題解決の方向性に対する観点整理や助言を行う。			
実務経験を活かした教育内容				
実習方法	小学校で1週間（5日間：45時間）。 日程や具体的内容等は「栄養教育実習事前・事後指導」のオリエンテーションで説明する。			
実習施設	札幌市内の小学校（予定）			

授業科目	教職実践演習 Seminar on Teaching Practice		担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4 年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	2 単位
授業目的	これまでの教職課程で学んだ理論と実践の有機的な統合を図るため、講義により学びを深めるほか事例研究（討論）、年間指導計画の立案や教材研究、栄養教育の実践等を行う。			
到達目標	1）教員としての使命感、責任感、社会性や対人関係能力について理解する。 2）栄養教諭としての指導力等について自ら確認し、課題探究とその解決策に向けて取り組む。			
関連科目	栄養教育実習事前・事後指導、栄養教育実習			
テキスト	適宜、資料等の配布し、教科書等を貸与する			
参考書	適宜、提示する			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 目標の達成状況を下記の点から評価する。 ・提出物：指導案・レポート等の提出物（30％） ・その他：討議、演習、実践等への参加態度（30％）、 ・プレゼンテーション（40％）	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30		
	その他	70		
履修上の留意事項	栄養教諭課程の総まとめの演習と心得、栄養教諭としての資質向上を目指して積極的に取り組んで欲しい。			
課題に対するフィードバックの方法	事例研究（討論）での観点整理を行ったり、年間指導計画の立案や教材研究、栄養教育の実践等を客観視する助言を行う。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、教員としての使命感、責任感、社会性について理解しやすいように授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (全担当教員)	ガイダンス（科目の趣旨・ねらい）	討論「履修カルテ」を活用したこれまでの学修の振り返り		事前：これまでの履修カルテの振り返り（1 時間）。事後：履修カルテの記入と記載内容の振り返り（1 時間）
2 (全担当教員)	討論 栄養教育実習からの事例研究	教科指導の分析・グループ討論		事前：栄養教育実習での学びをまとめる（1 時間）。事後：栄養教育実習での学びの振り返り（1 時間）
3 (全担当教員)	発表・討論	「第 2 回グループ討議」発表と全体討論		事前：栄養教育実習での学びの振り返り（1 時間）事後：討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り（1 時間）
4 (全担当教員)	討論 栄養教育実習からの事例研究	生徒指導の分析・グループ討論		事前：前回の討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り（1 時間）事後：（1 時間）栄養教育実習での学びの振り返り（1 時間）
5 (全担当教員)	発表・討論	「第 4 回グループ討議」発表と全体討論		事前：前回の事例研究の学びの振り返り（1 時間）事後：討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り（1 時間）
6 (全担当教員)	講義 学校現場の実際Ⅰ	学校栄養教諭による地域連携の実際		事前：講師から学びたい事項（質問事項）の整理（1 時間）事後：地域連携の実際について自分なりにまとめる（1 時間）
7 (全担当教員)	討論	「第 6 回講義」からの学び		事前：第 6 回講義での学びの振り返り（1 時間）事後：討論を通じて気付いたことを自分の言葉でまとめる（1 時間）
8 (全担当教員)	演習「年間指導計画」作成～立案に向けた情報収集・グループ討論	グループ討論による年間指導計画の作成		事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1 時間）事後：「年間指導計画」作成方法の振り返り（1 時間）
9 (全担当教員)	演習「年間指導計画」立案（完成）と教材研究	グループ討論による年間指導計画の作成と教材作成		事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1 時間）事後：「年間指導計画」と「教材作成」方法の振り返り（1 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10 (全担当 教員)	演習 教材作成（個人作業）	栄養教育（発表用）に必要な教材の作成	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1時間） 事後：「教材作成方法」の振り返り（1時間）
11 (全担当 教員)	演習 教材作成・発表（グループ内での発表・修正作業）	栄養教育（発表用）に必要な教材の作成と討論による修正	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1時間） 事後：「教材作成方法」の振り返り（1時間）
12 (全担当 教員)	演習 教材を活用した栄養教育の計画・指導案作成	作成した教材を活用した栄養教育計画と、指導案の作成	事前：「栄養教育計画」について事前に参考書籍に目を通す（1時間）事後：栄養教育の手法と、指導案作成方法の振り返り（1時間）
13 (全担当 教員)	演習 教材を活用した栄養教育のグループ内発表	グループ討論による栄養教育内容の発表と修正	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：グループ内発表を簡潔にまとめる（1時間）
14 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表（1グループの発表）と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
15 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表（2グループの発表）と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
16 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表（3グループの発表）と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
17 (全担当 教員)	討論 栄養教育の模擬発表の振り返り・改善案について	栄養教育の発表内容全体を振り返り・改善方法等について討論	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：改善方法等について討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
18 (全担当 教員)	演習 栄養教育の準備Ⅰ（教材の作成・変更等）	栄養教育の実践に向け教材の作成・変更・練習等	事前：栄養教育の実践に向け教材に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：教材の作成・変更・練習等について気付いたことを整理する（1時間）
19 (全担当 教員)	演習 栄養教育の準備Ⅱ（グループ内練習等）	グループ内での栄養教育の練習等	事前：グループ内での栄養教育の練習に向けた準備と確認（1時間）事後：栄養教育の実践に向けた準備（1時間）
20 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践（1グループ）	1 グループは栄養教育の実践／他グループは発表の観察	事前：グループ単位で実践に向けた準備と確認（1時間）事後：実践と観察を通じて学んだことの振り返り（1時間）
21 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践（2グループ）	2 グループは栄養教育の実践／他グループは発表の観察	事前：グループ単位で実践に向けた準備と確認（1時間）事後：実践と観察を通じて学んだことの振り返り（1時間）
22 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践（3グループ）	3 グループは栄養教育の実践／他グループは発表の観察	事前：グループ単位で実践に向けた準備と確認（1時間）事後：実践と観察を通じて学んだことの振り返り（1時間）
23 (全担当 教員)	討論 栄養教育実践の評価・改善について	全グループの栄養教育実践結果の報告と改善点について討論	事前：グループ単位で実践のまとめを確認（1時間）事後：討議の内容を自分なりに整理する（1時間）
24 (全担当 教員)	講義 「学校現場の実践Ⅱ（特別支援学校で栄養教諭の役割）」	学校栄養教諭による特別支援学校における業務の実践	事前：講師から学びたい事項（質問事項）の整理（1時間）事後：特別支援学校における業務の実践について自分なりにまとめる（1時間）
25 (全担当 教員)	討論 「第24回の講義からの学び」	「第24回の講義」からの学び	事前：第24回講義での学びの振り返り（1時間）事後：討論を通じて気付いたことを自分の言葉でまとめる（1時間）
26 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育の計画・指導案作成	グループ討論による指導計画、指導案の作成	事前：特別支援学校に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：指導計画、指導案の作成のポイントを整理する（1時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
27 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育のグループ内発表	グループ討論による栄養教育内容の発表と修正	事前：グループ内発表の準備と確認（1時間）事後：栄養教育内容の発表と修正についてまとめる（1時間）
28 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育の模擬発表	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：模擬発表に向けて事前準備と確認（1時間）事後：栄養教育の模擬発表で学んだことを自分なりにまとめる（1時間）
29 (全担当 教員)	討論 特別支援学校における栄養教育のあり方について	現場の栄養教諭を交えて、栄養教育のあり方について討論する	事前：第 24 回講義での学びの振り返り（1時間）事後：現場の栄養教諭を交えての討論で気付いたことを自分の言葉でまとめる（1時間）
30 (全担当 教員)	討論 「教職実践演習の振り返り」、履修カルテの記入・自己評価	履修カルテを活用して、自己の学び（達成状況）や課題を振り返る	事前：これまでの履修カルテの振り返り（1時間）。事後：履修カルテの記入、自己評価（1時間）



札幌保健医療大学

〒007-0894 札幌市東区中沼西4条2丁目1番15号

TEL(011)792-3350 FAX(011)792-3358

<http://www.sapporo-hokeniryou-u.ac.jp>